

# リアホナ

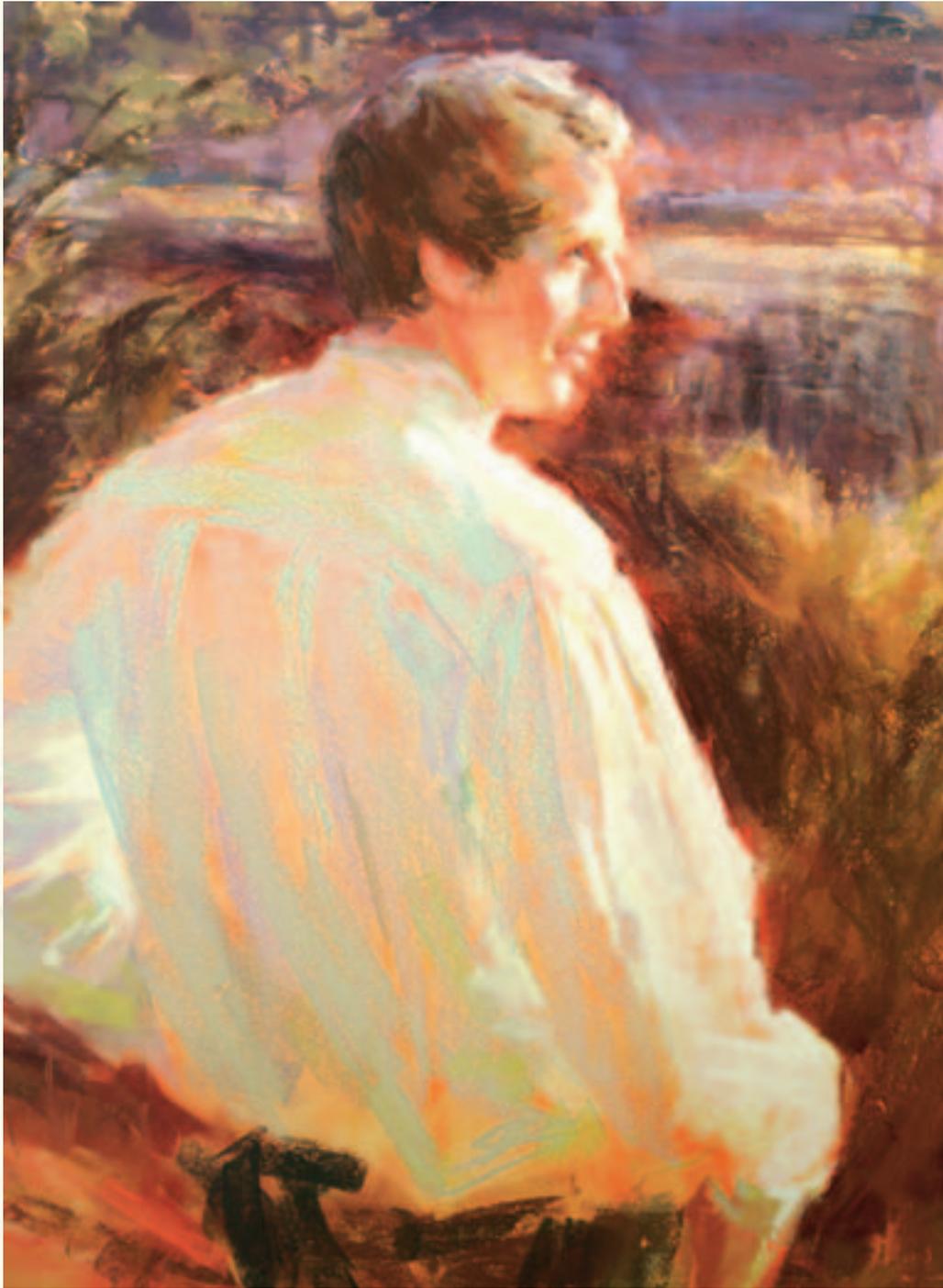


来て、今日<sup>きょう</sup>キリストを  
見ましょう、4ページ

大いなる贈り物を受ける、26ページ

暗闇<sup>くらやみ</sup>のない夜に救われた、50ページ

活動 — ほうしを しているひとを  
さがそう、72ページ



描写は飾られています

### 「西の方角を見て」 ジュリー・ロジャーズ画

ジョセフ・スミスの殉教後、ジョン・テラー大管長（1808 - 1887年）はこう記しました。「主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。二十年という短期間のうちに、彼は、彼自身が神の賜物と力によって翻訳し……た『モルモン書』を出し、……

『教義と聖約』という本書を構成する数々の啓示と戒め……を出し、……何千人もの末日聖徒を集め、一つの偉大な都市を建設し、……彼は神とその民の目に偉大な者として生き、偉大な者として死んだ。そして、昔の、主の油注がれた者のほとんどがそうであったように、彼は、自らの血をもって自分の使命と業を証明したのである。」（教義と聖約 135 : 3）



## メッセージ

- 4** 大管長会メッセージ——  
キリストが見えるでしょうか  
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 7** 家庭訪問メッセージ——  
神殿と家族歴史の業に  
携わる責任

## 特集

- 18** ティモシーのための子守歌  
キャサリン・クレメント・パウセン  
救い主は痛みを平安に変える手  
助けをしてくださいました。



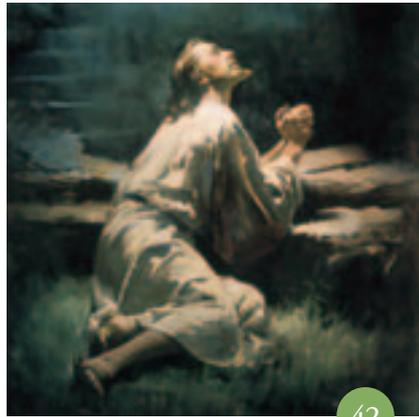
表紙  
表紙——「王の誕生」  
C・マイケル・ドゥダッシュ画。  
裏表紙——  
「大きな喜びの良知らせ  
——羊飼いたちが夜に」  
C・マイケル・ドゥダッシュ画。

- 20** ヘンデルとメサイアの贈り物  
スペンサー・J・コンディー長老  
ヘンデルの「メサイア」の作曲か  
ら得られる7つの教訓
- 26** 大切にすべき価値ある贈り物  
ニール・L・アンダーセン長老  
この天から授かった賜物——聖  
霊——を、日々の活動に不可欠  
な羅針盤として活用できます。
- 32** 七十人が語るクリスマス伝統

## シリーズ

- 8** 小さな、簡単なこと
- 11** 教会での奉仕——  
これらの最も小さい者に  
ダイアン・W・ストダード

- 12** わたしたちの家庭、  
わたしたちの家族——  
子供が選択の自由を使えるように  
助ける  
マルコス・フェルナンド・ドス・サントス
- 14** わたしたちが信じていること——  
イエス・キリストは神の独り子
- 16** 福音クラシック——  
常に新しい物語  
ヒーバー・J・グラント大管長
- 37** キリストについて語る——  
贈り物  
ジョアン・M・オレニッチ
- 38** 末日聖徒の声
- 74** 教会のニュース
- 79** 家庭の夕べのためのアイデア
- 80** また会う日まで——  
ぶどう畑のクリスマス  
ラリー・ヒラー



42

**42** わたしたちに対する  
指導者の言葉—— 恐れるな  
タッド・R・カリストー長老

**45** 生活の中の福音——  
時間が足りませんか？  
孫 弘旭



こんげつごう なか  
今月号の中に  
かく 隠れている  
リアホナを  
さが 探しましょう。  
ヒント—— ほうし 奉仕



50

**46** 質疑応答  
「聖文を読もうという意欲をなかなか持てません。どうすれば意欲を持つことができるでしょうか。」

**48** ポスター—— 愛の清らかな光

**49** わたしたちのスペース

**50** 新世界でのクリスマス  
ウェンディ・ケニー  
救い主の降誕のしるしが、アメリカ大陸の信者たちを救いました。

**54** 最高のプレゼント  
エールソン・セールス  
クリスマスの朝、外で隣人たちが祝っているざわめきが聞こえました。でもわたしたちは家の中で、奇跡が起こるのを願っていました。

**56** わたしは  
このようにして  
知りました——  
甘いミルクのように  
ヨランダ・モラレス・  
ボサダス



49



64

**58** オープンハウス  
ジーン・マクブライド・チョート  
ワードのクリスマスパーティーをしないなんて、信じられませんでした。でも、もっと良い経験になりました。

**60** イエスさまへの  
クリスマスプレゼント  
すくいぬしの たんじょうを お  
いわいするために 5つの おくり  
ものを あげましょう。

**61** わたしたちのページ  
**62** 分かち合いの時間——  
わたしは あがないぬしが  
生きておられることを  
知っています  
サンドラ・タナー、  
クリスティーナ・フランコ

**64** かいばおけの わら  
ジェーコブ・F・フランドセン  
人をたすけるたびに、マイケルは  
かいばおけに わらを 入れてい  
きました。

**66** イエス様がお生まれになった  
ダイアン・L・マンガン  
預言者たちが約束したとおりに  
なりました。天使たちは喜びの声を  
上げ、羊飼いたちは神をあがめ  
ました。

**68** とくべつな おきやくさま  
ロレイン・リチャードソン

**70** ちいさな おともだちへ

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウーグトルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー, L・トム・ペリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: ボール・B・パイパー

顧問: スタンレー・G・エリス, クリストフェル・ゴールデン・ジュニア, 菊地良彦

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ピンセント・A・ボーン

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーグ

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド, アダム・C・オルソン

共同編集者: ライアン・カー

編集補佐: スーザン・バレット

編集スタッフ: デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリットン, ラリー・ポーター, ガーント・ラリー・ヒラー, キャリー・カステン, ジェニファー・マティエ, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカー, ジョシュア・J・パーキー, チャド・E・ファレス, ジャン・ピンボロ, リチャード・M・ロムニー, ドン・L・サール, ジャネット・トーマス, ボール・バンデンバーク, ジュリー・ワーデル

主任秘書: ローレル・トイチャー

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: スコット・バン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

主任デザイナー: C・キンボール・ボット, トーマス・S・チャイルド, コリン・ヒンクラー, エリック・P・ジョンソン, スコット・M・ムーイ

制作スタッフ: カリ・R・アロヨ, コレット・ネベカー・オーヌ, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・パーデット, レジナルド・J・クリステンセン, キム・フェンスターマー, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, キニー・J・ニルソン

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: エバン・ラーセン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金ください。直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒113-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 1,000円(送料共)

普通号/大会号 150円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は下記の連絡先にお送りください。

Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,

Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」は、www.liahona.lds.org に様々な言語で掲載されています。

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスマラ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, ギリシャ語, ヒンディー語, ハンガリー語, アイスランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, シンハラ語, スロベニア語, スペイン語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, テルグ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2010 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール — cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada: December 2010 Vol. 34 No. 12. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431) POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

# インターネットで得られる追加情報

Liahona.lds.org [英語]

## 成人



スペンサー・J・コンディー長老は、「メサイア」を作曲したヘンデルの生涯から得られる7つの教訓を紹介しています(20ページ参照)。「メサイア」の一部を**タバナクル**合唱団の演奏で聞くことができます。

www.liahona.lds.org にアクセスしてください。

## ヤングアダルト



去年の12月に南アフリカのある若者がカンタータを作曲し、同じステークのヤングアダルトがそれを演奏しました(23ページ参照)。彼はこう言っています。「肝心なのは、カンタータの音楽と歌詞を通して救い主に関する自分たちの証を分かち合うことでした。」この**カンタータの一部をビデオ**で見ることができます。www.liahona.lds.org にアクセスしてください。

## 子ども

72-73ページで、**テンブルスクウェア**の中で行われている **かくれたほうし**を5つ **見つけて**ください。www.liahona.lds.org に **アクセス**すると、**同じようなゲーム**ができます。



## あなたの言語で

www.languages.lds.org で、「リアホナ」や教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。

## 今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

- 証, 39, 62
- 贖い, 42
- イエス・キリスト, 4, 14, 16, 37, 48, 50, 58, 60, 62, 66, 70
- インスティテュート, 45
- 親の務め, 12, 18
- 音楽, 20, 38
- 改宗, 改心, 56
- 家族, 11, 12, 18
- クリスマス, 4, 32, 37, 38, 40, 50, 54, 58, 62, 64, 70
- 従順, 26
- 障がい, 18
- 信仰, 26, 42, 50

- 神殿活動, 7, 45
- スミス, ジョセフ, 39, 68
- 聖文研究, 46
- 聖霊, 26
- 選択の自由, 12
- 標準, 49
- 奉仕, 7, 11, 41, 45, 54, 64, 72, 80
- 召し, 11
- 優先順位, 45
- 靈感, 20, 26
- 労働, 20

大管長会第二顧問  
ディーター・F・  
ウークトドルフ管長



# キリスト が見えるでしょうか

**あ**る晩、おじいさんが4歳の孫娘に物語を読んであげていたときのことです。孫娘が顔を上げて言いました。「おじいちゃん、星を見て！」おじいさんは優しくほほえんで言いました。「ここは部屋の中だよ。星なんてないだろう。」それでも子供は譲りません。「おじいちゃんの部屋には星があるよ。見て！」

そこでおじいさんは見上げると、驚いたことに、天井のあちこちで金属のようなものがきらきらと輝いているのに気づきました。普段は見えることがほとんどないのですが、光の当たり方によっては、実際に星が一面に広がっているように見えるのでした。子供の目で見なければ見えませんでした。確かにそこにあったのです。それ以来、おじいさんはこの部屋に入って見上げると、以前は見えなかったものを見ることができました。

音楽やイルミネーション、パーティーやプレゼントであふれるすばらしいクリスマスの季節をまた迎えようとしています。しかし救い主の御名を冠する教会の会員として、わたしたちはだれにも増して、この季節の華やかさの向こうに目を向け、一年のこの時期にまつわる崇高な真理と美を見いだす必要があります。

ベツレヘムにいた人々の中に、まさにその地で、自分たちのすぐ近くで救い主がお生まれになったことを知っていた人は、どのくらいいたのでしょうか。神の御子、長く待ち望まれてきた約束されたメシヤである主が、実に彼らのただ中におられたのです。

天使が羊飼いたちに何と告げたかを覚えているでしょうか。「きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。」そして羊飼

たちは互いに言いました。「さあ、ベツレヘムへ行行って、……その出来事を見てみようではないか。」(ルカ2:11, 15)

昔の羊飼いたちのように、わたしたちは心の中でこう言う必要があります。「その出来事を見ようではないか。」それを見たいと、心の中で望む必要があるのです。銅葉おけの中に、神殿に、山上に、そして十字架架上におられるイスラエルの聖者を見ようではありませんか。羊飼いたちのように、これらの大なる喜びのおとずれのゆえに神をあがめ、ほめたたえようではありませんか。

ずっと目の前にあったものほど、時に見えにくいことがあります。天井の星が見えなかったおじいさんのように、ありふれた景色の中にあるものが見えないことがあるのです。

神の御子の来臨についての栄えあるメッセージを聞いているわたしたち、主の御名を受け、主の弟子として主の道を歩むと聖約しているわたしたちは、心と思いをしっかりと開き、実際に主を見なければなりません。

クリスマスは様々な点ですばらしい季節です。優しさや兄弟愛による慈愛の行いをする季節です。自分自身の生活について、そして受けているたくさんの祝福について、いつも以上に深く考える季節です。赦し、赦される季節です。音楽やイルミネーション、パーティーやプレゼントを楽しむ季節です。しかしこの季節の華やかな輝きでわたしたちの目がかすみ、威厳に満ちた平和の君が見えないということが決してないようにする必要があります。

わたしたち皆が、今年のクリスマスの季節を喜びと祝いの時期とし、わたしたちの全能の神が世を贖うために御自分の独り子であるイエス・キリストを遣わしてくださったという奇跡に感謝する時期としようではありませんか。■





## このメッセージから 教えるためのアイデア

1. 「導入は関心を引き起こし、生徒がレッスンのテーマに注目するのを助けるために用いられる。……写真や絵はレッスンの主要点を強調し、生徒の注意を引きつけておくのに役立つ手段である。」（『教師、その大いなる召し』160, 175）このメッセージを伝えるとき、最初に導入として写真や絵を見せたり聖句を読んだりして、それがメッセージにどのように当てはまるかについて考えてもらうとよいでしょう。

2. 「教師として最も重要な目標の一つは、生徒が福音の原則を日常生活に応用するのを助けることである。……生徒が福音に従って生活するときに授けられる祝福を見いだせるよう助ける。」（『教師、その大いなる召し』159）このメッセージを伝えた後、クリスマスの季節に救い主に心を向けたことによって経験したことを家族の人たちに話してもらうとよいでしょう。

## 青少年

### 伝道中のクリスマス

ローラン・クック

**専**任宣教師としての2度目のクリスマスに、同僚とわたしはバプテスマを受けて間もない会員とその家族を訪問していました。すばらしいクリスマスのごちそうを頂いた後、彼らにクリスマスのメッセージを伝えました。

わたしたちは家族の人たちに、星やプレゼント、キリスト降誕の様子を再現した人形、クリスマスツリーなど、クリスマスを思い起こさせるものの絵をかいてもらいました。その後、幾つかの聖句を読みました。その一つがニーファイ第二書第19章6節でした。「わたしたちのために一人のみどりごが生まれる。わたしたちのために一人の男の子が与えられる。主権は彼の肩にあり、その名は霊妙、助言者、力ある神、永遠の父、平和の君となえられる。」そして「昔ダビデ王の町に」(『賛美歌』[英文] 205番)を歌い、キリストの降誕についての映画を見た後、イエス・キリストについて証を述べました。

自分の家族やいつものクリスマスのお祝いから離れ、質素な環境の下で過ごすクリスマスでしたが、救い主について証を述べたとき、主と主の降誕に対して、それまで経験してきた以上に深い愛と感謝の念に満たされました。天の御父のために働く専任宣教師として過ごす最後のクリスマスになることを実感しましたが、どこにいようと神の御霊が御子についてわたしに証してくれることが分かりました。



## こども

### すくいぬしに 目を むけましょう

**ウ**ークトドルフかんちょうは、クリスマスには すくいぬしのしょうがいをおもいださせてくれるものをさがしましょうと 言っています。下のさんしょうせいくをしらべましょう。それぞれのせいくに合った絵を見つけて、絵の下にせいくのばしょを書きましょう。



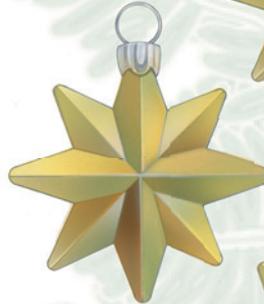
マタイ 2:1-2



ルカ 2:46



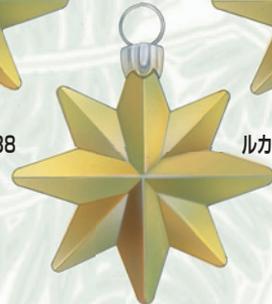
ルカ 8:49-55



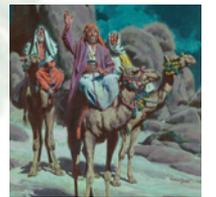
マタイ 15:32-38



ルカ 23:33-34, 44-46



ヨハネ 20:11-20



左一 絵／ポール・マン、飾りの絵／ジョー・フロレス「ヤイロの娘をよみがえらせるキリスト」グレッグ・オルセン画 © 2006、神殿での少年イエスのグランド・ロバート・クロニン画 © 2010  
「十字架のはりつけ」ハリ・アンダーソン画 © 2010 絵／ポール・マン。「主はよみがえられた」デル・パニン画。三人の博士とイエス・キリストの誕生 © 2010



信仰・家族・扶助

## 神殿と家族歴史の業に携わる責任

この資料を学び、必要に応じて訪問先の姉妹と話し合ってください。質問を使うことによって、訪問先の姉妹を強め、あなた自身の生活の中で扶助協会を生かすようにしてください。

**何**世紀にもわたって、たくさんの人々が福音について知らずに亡くなっていきました。その中には皆さんの近親の人や遠縁の人もいます。彼らは皆さんが家族をつなぐために必要な調査を行い、彼らのために救いの儀式を執行するのを待っています。

世界中のほとんどの神殿では、その業が十分活発に行われているとは言えません。主の来臨の時に地がことごとく荒廃することのないように、皆さんの心は先祖に向かうであろうと、主は約束しておられます（教義と聖約 2：2-3 参照）。

神殿と家族歴史の業に携わることによって受ける個人の祝福があります。その一つは、自分の先祖のために働くときに感じる喜びです。もう一つは、皆さんが主の前にふさわしい状態であることを示す、神殿推薦状を持つ資格が得られるということです。今日推薦状を持つ特権にあずかるにふさわしい状態にない人は、できるだけ早く資格を得るように、ビショップや支部会長と一緒に取り組むようにする必要があります。この重要な資格を持たないままにしていることのないようにしてください。贖罪が現実のものであって、適切な方法で悔い改めるときに罪の赦しを受けられることを証します。

神殿と家族歴史の業に携わるとき、わたしたちは必ず御霊を受けて、困難の中にあつて慰めを、重要な決断をする際に導きを得ることができます。神殿と家族歴史の業は、わたしたち自身の先祖に対する扶助の業、すなわち奉仕の業の一部です。

中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック

### 聖文から——

マラキ 4：5-6；1 コリント 15：29；  
1 ペテロ 3：18-19；  
教義と聖約 110：13-16；128：24

詳しくは [www.reliefsociety.lds.org](http://www.reliefsociety.lds.org) [英語] をご覧ください。

### 何ができる でしょうか？

**1.** 訪問先の姉妹が先祖を捜し出し、先祖のために神殿の儀式を行えるように、どのような助けができるでしょうか。姉妹たちの必要をどのように満たすかについて考える際、それぞれの姉妹の状況について考えてください。家族歴史の業が、新会員や教会に再び集うようになった会員、あまり活発でない会員を強めることが度々あるという点を考慮するとよいでしょう。

**2.** 神殿と家族歴史の業を通して、これまでどのようなときに困難の中にあつて慰めを、重要な決断をする際に導きを得てきましたか。

### わたしたちの歴史から

「預言者ジョセフ・スミスは次のように語りました。『わたしたちがこの世で神から受けている最も大きな責任は、死者を捜し求めることです。』（*History of the Church*, 第6巻, 313）創立当初から、扶助協会の姉妹たちはこの大いなる業を支えてきました。1842年、ノーブーでのことです。神殿の建設作業を行う人々を助けたいというサラ・M・キンボール姉妹の望みをきっかけに、姉妹たちが集まって、より効果的に働けるように自らを組織しました。姉妹たちが会合を持つようになると、預言者が……神権の規範に倣って最初の扶助協会を組織しました。それ以降、扶助協会の姉妹たちはノーブー神殿の作業を進めるのを支援しました。……

聖徒たちが初めてユタに到着してから8年後の1855年、エンダウメントハウスが設けられました。扶助協会の創立時からの会員で、同組織の記録を保存してきたエライザ・R・スノーが、プリガム・ヤング大管長によって1866年に中央扶助協会会長に召されました。スノー姉妹とほかの姉妹たちは、エンダウメントハウスで忠実に働きました。後に、セントジョージ、ローガン、マンタイに神殿が完成すると、姉妹たちはそれらの地で死者のための業を行うために、それぞれの神殿を訪れました。」<sup>1</sup>

注

1. メアリー・エレン・スムート, "Family History: A Work of Love," *Ensign*, 1999年3月号, 15



# 小さな、簡単なこと

「小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。」  
(アルマ 37:6)

## 預言者の言葉から

### クリスマスの思い出

トーマス・S・モンソン大管長

**我**が家の片隅に、握り部分に銀メッキを施した小さな黒い杖がしまっています。かつては遠い親戚が使っていたものです。70年以上もの間、なぜこの杖を保管していると思いますか。それには特別な理由があります。幼いころ、わたしはワードのクリスマス劇に出演しました。光栄にも、3人の博士の一人を演じました。頭にはスカーフを巻き、母のピアノのいすカバーを肩にかけ、あの黒い杖を持って、せりふを言

いました。「ユダヤ人の王としてお生まれになったかたは、どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たので、そのかたを拝みにきました。」(マタイ 2:2) そのときの気持ちは今でも鮮明に思い出せます。「3人の博士」になったわたしたちは、星を見上げ、舞台の端から端まで旅をして、マリヤと幼子イエスを見つけ、伏してイエスを拝し、贈り物として黄金、乳香、没薬をささげたのです。

物語で特に好きだったのは、博士たちが邪悪なヘロデのところへ戻って幼いイエスを裏切るようなまねはせず、神の指示に従って別の道を帰って行ったところです。

時は瞬く間に過ぎ去りましたが、あのクリスマスの杖は、今も我が家の、ある場所にしまってあり、キリストへの忠誠心は常にわたしの心を占めています。

「大切な贈り物」『リアホナ』2006年12月号、3-4より



#### カレンダー

**大**管長会クリスマスディボーションは2010年12月5日に行われ、大管長会からのメッセージおよびタバナクル合唱団とテンブルスクウェア管弦楽団の音楽で構成されます。放送の時間と場所については地元の神権指導者に、または[www.lds.org](http://www.lds.org)で確認してください。また[www.broadcast.lds.org](http://www.broadcast.lds.org)からオンラインで視聴することもできます。



# 家庭の夕べの持つ力

**夫**のルイス・アントニオとわたしは家庭の夕べの持つ力と、家庭の夕べを通して家族が福音の中で強められることについて大きな証を持っています。家庭の夕べを行おうとすることは必ずしも容易ではありませんでしたが、長年続けることによって、わたしたちや4人の子供たちに大きな変化をもたらされました。

家庭の夕べで最も感動的な出来事が起きたのは、息子のレナがバプテスマを受ける準備をしていたときのことでした。我が家の二人の年長の娘シンシアとリリアンが、弟の8歳の誕生日までの1か月間、家庭の夕べのレッスンを教えると言ってきたのです。夫とわたしは娘たちがバプテスマの意味と目的を教える様子を見てとてもうれしく思いました。そのレッスンは娘たちがバプテスマの準備をしていたときにわたしたちが教えたのと同じものでした。4年後に今度はレナが姉たちの模範に従って、妹のエレンのためにバプテスマのレッスンを教えました。

家庭の夕べは子供たちが様々な問題を経験する10代を通じて、わたしたちと子供たちに祝福をもたらしてきました。子供たちは家庭の夕べによって証を持ち続け、福音に忠実であることができました。今では息子は伝道を終えて帰還し、娘たちは神殿で結婚して子供がいます。

家庭の夕べが教会の最も素晴らしいプログラムの一つであることを証します。預言者の指示に従って家庭の夕べを一貫して行ったことにより、わたしたちの生活は大きな祝福を受けました。この教えに進んで従う人はだれでも祝福されることをわたしたちは知っています。確かに、家庭の夕べを行うには多くの努力と計画を必要としますが、わたしたちにとって、永遠の祝福はそうように少しずつ積み上げていく努力に十分見合うものとなることでしょう。

ワルキリア・サンタナ・カイロ  
(ブラジル)



## クリスマスのお話

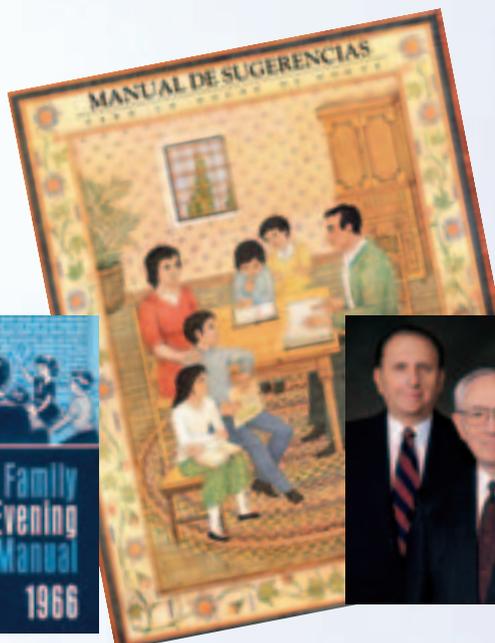
**多**くの人々はルカによる福音書第1章から2章で紹介されているキリスト降誕のお話をよく知っています。けれども聖文の中には救い主イエス・キリストの奇跡的な降誕について述べている箇所がほかにたくさんあります。今月の個人の聖文研究で以下の聖句を採り上げてみませんか。

旧約聖書	新約聖書	モルモン書	教義と聖約	高価な真珠
イザヤ7:14; 9:6-7	マタイ1-2章	1ニーファイ 10:4-6; 11:13-21	教義と聖約 76:41	モーセ5:57
ミカ5:2	ヨハネ1:1-14	アルマ7:9-13  ヒラマン14:1-9  3ニーファイ1章	教義と聖約 93:1-4	

写真/ワエルデン・C・アンダーセン、博士たちの絵/ポール・マン © 2010  
 イエスの降誕/カール・ヘンリック・ブロック、デンマーク、ヒレレスのプレスレクスホー城内にある国立歴史美術館の許可を得て使用。複製は禁じられています。彫刻/ベス・M・ホイッタカー

### 家庭の夕べの時間

**教** 会員にとって、月曜の夜といえば家庭の夕べです。どのようにして始められたのでしょうか。以下の年表はその経緯を説明しています。



1909年

ユタ州グラナイトステーキが家庭の夕べを正式なプログラムとして立ち上げた。

1915年

ジョセフ・F・スミス大管長と大管長会顧問が、毎週1度子供たちを集めて「家庭の夕べ」(Home Evening)を開くよう教会の親たちに呼びかけた。

1935年

デビッド・O・マッケイ大管長が、「いかなる成功も家庭の失敗を償うことはできない」ことを親たちに思い出させた。<sup>1</sup>

1965年

家庭の夕べの公式な手引きが初めて出版された。1984年まで毎年改訂版が発行された。

1970年

大管長会が月曜の夕べを家庭の夕べの時間として指定した。

1985年

豊富な資料と応用例を収めた『家庭の夕べアイデア集』が導入された。

1999年

大管長会が、月曜の夜にワードまたはステーキ活動を計画しないこと、また可能であるなら、月曜の夕べに地域の活動を実施しないことを求める書簡を発表した。

注

1. デビッド・O・マッケイ (J・E・マッカロク, *Home: The Savior of Civilization* [1924年], 42から引用), *Conference Report*, 1935年4月, 116。



#### 独身または子供のいない人々のための家庭の夕べのアイデア

- 聖文、扶助協会または神権会の手引き、あるいは教会機関誌からの記事を研究する。
- 家族歴史の作業を行う。
- ワードか支部の会員たちを招いて一緒に家庭の夕べを開く。
- 遠くに住んでいる家族や、ワードまたは支部から出ている宣教師に手紙を書く。
- 奉仕をする。助けを必要としている人に食事を持って行くことや養護施設に入っている人を訪問すること、または地域の活動にボランティアとして参加することなどを検討する。

# これらの最も小さい者に

ダイアン・W・ストダード

**4**人の小さな子供を抱えているわたしに、空いた時間があるようには思えませんでした。いつものように忙しく奔走していたある日、ビショップから電話がありました。わたしたち夫婦に会いたいと言うのです。驚いたことにビショップはわたしを扶助協会の会長に召しました。

そのことについて祈りたいとビショップに伝えました。このような生活の中で、多くの時間を必要とする召しが果たせるかどうか分かりませんでした。自分は不十分であると感じ、また不安が募ってきました。2日間答えを求めて祈りました。

訪問教師の一人が電話をくれて、訪問の日時を約束しました。彼女はわたしが苦しんでいることなど知る由もありませんでした。彼女はやって来ると、教会の初期の時代にユタで扶助協会会長を務めたエマ・サマービル・マッコンキーの話をしてくれました。マッコンキー姉妹のワードには、新生児を含む何人かの子供を抱えた女性がいました。その女性の家庭は貧しかったため、マッコンキー姉妹は毎日訪問して、食べ物を届け、育児を手伝っていました。

「ある日、[マッコンキー姉妹は]疲れ果てて家に戻って来ました。そしていすに座ったまま眠ってしまいました。彼女は赤ん坊を入浴させている夢おきなこを見ていました。その赤ん坊は幼子

キリストであることに気づき、そしてキリストにお仕えできるなんて何と名誉なことだろうと思いました。そして、赤ん坊を自分のひざに乗せたとき、まったく圧倒されていました。……言葉に表せないほどの喜びで全身が包まれました。……あまりの喜びに目が覚めました。我に返ると、このような言葉が聞こえました。『わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』<sup>1</sup>

わたしはその話を聞いて、慰めと平安が全身に広がっていくのを感じました。主はわたしの状況を御存じでした。主はわたしがワードの姉妹たちのために働くよう望んでおられました。主はわたしがすべての責任を果たせるように祝福してくださることを知りました。こうしてわたしは召しを受けました。

家族の必要と要求にこたえながらも召しを果たせたことに今でも驚いています。また、靈感によって必要なときにメッセージを分かち合ってくれた訪問教師に感謝しています。それ以来、わたしはためらわず召しを受けています。天の御父に仕えるとき、御父はわたしたちが召しを果たすために必要な時間とエネルギーと能力あかしを祝福してくださるといふ証を持っています。■

注

1. ブルース・R・マッコンキー, "Charity Which Never Filleth," *Relief Society Magazine*, 1970年3月号, 169, 強調付加



賢く奉仕する

**家**族、仕事、その他の責任で求められている事柄と指導者の召しとの間でバランスを取る

には知恵を使う必要があります。そのために6つの事柄を提案します。

1. **プログラムではなく、人に集中する。** 評議会、会長会、指導者会では人々の必要に重点を置く。
2. **創造力を発揮する。** 教会の方針と原則の枠組みの中で創造力を発揮し、御霊の導きを求める。
3. **責任を委任して、人々の成長を助ける。** 指導者は助言し、提案し、動機づけを与えるが、他人の仕事を代わりに行ってはならない。
4. **罪悪感を取り除く。** すべてのことを「賢明に秩序正しく」(モーサヤ4:27) 行うべきことを理解する。そのために、状況に合わせて優先順位を変え、順位の高いものにいつその力を注ぐ。
5. **最善を尽くす。** 自分の能力を理解し、自分のペースをつかみ、自分の健康を守りながらほかの人々を助けるために自分の使えるものを優先順位に基づいて配分する。
6. **新会員の必要に配慮する。** 福音を学び、ほかの会員たちと知り合い、意義ある奉仕をする機会を彼らに与える。

十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード長老  
「おお、賢くありなさい」  
『リアホナ』2006年11月号, 18-20より

# 子供が 選択の自由 を使えるように助ける

天の御父がアダムとエバに選択の自由について教えられたように、わたしたちも子供たちが選択の自由を理解して使えるように助ける必要があります。

マルコス・フェルナンド・ドス・サントス

**天**の御父がアダムとエバを造られたとき、二人には汚れがありませんでした。二人は人生のことや、この人生がもたらす結果についてあまり知りませんでした。しかし、この地上に存在することについて彼らが学んでいる間、天の御父は彼らとともに歩き、教え、忍耐しながら過ごされました。

親であるわたしたちにも、小さな子供のそばにいて教える特権があります。しかしながら、わたしたちは忘れてしまうことがあるかもしれませんが、子供たちは、天の御父の霊の子供でもあるのです。わたしたちには、子供たちが最初の教えを学ぶのを助けるという責任があります。そして、子供たちを救い主イエス・キリストのもとへ導くという務めがあります。

エデンの園での天の御父の模範に従うなら、わたしたちは子供を養い、イエス・キリストの福音を子供に教えるという責任を引き受けることでしょう。そうするときに、子供たちに自分の行動の結果について教える必要があります。これは簡単なことではありません。なぜなら、わたしたち自身もまだ学ん

でいる最中であり、時々天の御父の御心に添わない行いをしてしまうからです。また、子供が失敗から学ぶことで益を得るような場合でも、わたしたちは時々割り込んで、子供を助け出してしまいたくなります。

天の御父は最初から忍耐強くアダムとエバに選択の自由について教えられました。御父は戒めと、結果と、選択の自由を使う力を与えて、言われました。「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。しかし、善悪を知る木からは取って食べてはならない。それでも、あなたは自分で選ぶことができる。それはあなたに任されているからである。しかし、わたしがそれを禁じたことを覚えておきなさい。あなたはそれを食べる日に、必ず死ぬからである。」(モーセ3:16-17, 強調付加)

わたしたちは、子供に強制することなく、戒めに従うよう励ます方法を知りたいと思うかもしれません。わたしたちにできることで、助けることになる事柄がいくつかあります。わたしたちは子供に福音を、特に聖典から教えることができ、それから福音の原則に従って生活することができます。言葉

と模範を通して、天の御父に頼ることを教え、福音に従って生活することからもたらされる祝福を分かち合うことができます。親であるわたしたちにも弱点があるので、子供たちと同じように、御父の愛と憐れみと忍耐が必要であることを、教えることができます。

子供が不作法に振る舞うと、わたしたちは希望を失い始めることがあります。天の御父はわたしたちに対する希望を決して失われません。天の御父がわたしたちを見てくださるのと同じようにわたしたちも自分の子供を見ることを学ぶ必要があります。御父は、わたしたちを、御子の力と恵みを通じて御父のようになる可能性を持つ息子娘として見てくださっています。わたしたちには自分の子供を救う力はありませんが、模範となり子供たち



のために信仰を働かせることができます。

わたしたちがここにいるのは、だれかに天の御父の御心を行うよう強制するためではありません。もちろん、

子供にどの程度の自由と責任を与えるかは、その子の年齢や能力によります。選択の自由をふさわしく使えるように子供を助けるにつれて、子供が何をするかにかかわりなく、子供を教え、愛することがもっと容易にできるようになるでしょう。

わたしたちの天の御父はアダムとエバが誘惑され、善悪を知る木から食べることを御存じでした。御父は御子を通じて彼らが戻るための道をすでに用意しておられました。救い主の贖い<sup>あがな</sup>の犠牲について、悔い改めの原則について、御子の名によって神に叫び求める方法について、そして再び天の御父の憐れみと愛を通じて罪が赦<sup>ゆる</sup>されることについて、アダムとエバに教えるために、御父は天使を送られました（モーセ5章参照）。

たとえ子供が道をそれでも、子供への愛を表し、教えているとき、わたしたちは子供がイエス・キリストを信じる信仰と真の悔い改めを通じて喜びを見いだすことを望み祈りながら、確固として立つことができるでしょう。これらの原則を心に留めるならば、わたした

## 教えることの大切さ



「子供に福音を押し付けたくはないと何人かの親が言うのを聞いたことがあります。子供には何を信じて何に

従うかを自分で決めてほしいと言うのです。このようにすることで、子供に選択の自由を使わせていると考えているのです。このような親が忘れてしているのは、選択の自由を賢く使うためには、真理に関する知識、あるがままの事物の知識が必要だということです（教義と聖約 93：24 参照）。それがなければ、自分の前に置かれる選択肢を正しく理解し評価するよう若人に期待することはとうていできません。」

十二使徒定員会  
D・トッド・クリstofferson 長老  
「道徳面での鍛錬」  
『リアホナ』2009年11月号, 107

ちはさらにキリストの純粋な愛で豊かに満たされ、親としていっそう成功を収めることでしょう（教義と聖約 121：41 - 46 参照）。■

# イエス・キリスト

## は神の独り子

**イ**エスは死すべき母であるマリヤと、不滅の父である父なる神からお生まれになった、ただ一人の人でした。その理由で、イエスは神の独り子と呼ばれています。イエスは御父から神の力を受け継がれました(ヨハネ10:17-18参照)。母親から死すべき状態を受け継ぎ、飢えや渴き、疲労、苦痛、死を受ける者となりました。

イエス・キリストの死すべき生涯は、ベツレヘムでの降誕から始まりました。ルカはこのように記しています。「御使ガブリエルが、神からつかわされて、……一処女のもとにきた。この処女は……ヨセフという人のいいなづけになってい[た。]御使がマリヤのところへきて言った、『……あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。……聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、<sup>うま</sup>生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。』」(ルカ1:26-28, 31-32, 35。1ニーファイ11:16-21;アルマ7:10も参照)

マタイの記録によると、一人の天使が夢でヨセフに現れてこう言いました。「[マリヤ]は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼

は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである。」(マタイ1:20-21参照)マリヤとヨセフは両者とも、マリヤから生まれイエスと名付けられるその男の子は、神の独り子であられることを理解していました。

天使ガブリエルは、マリヤの親族エリサベツも男の子を身ごもっていると、マリヤに告げました。マリヤがエリサベツのもとに行くと、エリサベツは聖霊に満たされ、こう言いました。「主の母上がわたしのところにきてくださるとは、なんという光栄でしょう。」(ルカ1:39-45参照)エリサベツは、そのとき、マリヤが神の御子の母親になることを知りました。■



左から「あなたは女の中で祝福されたウオウレイ・レン画の『聖性をささげるサムとエバ』デル・バートン画。水の上を歩かれるキリスト」ロバート・T・バレット  
「オトイラス・トレーシントン・李賢煥の『「来ておきなさい」の「部」リス・レモン・スコイン画。ファウンデーション・アート社。機写は禁じられています」  
「レーマン人サムエルの預言」アーノルド・フリーバート画。『イエスに会いましょう』ロバート・T・バレット

イエス・キリストが  
神の御子であられるという証を  
聖霊から得た人は、  
ほかにもいました。  
以下にそのような証を  
幾つか紹介します。



4. アダムとエバは「御父の、……  
独り子の犠牲のひながた」として  
犠牲をささげました（モーセ  
5：7）。

使徒ヨハネは教えています。  
「言〔イエス・キリスト〕は肉体となり、  
わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。  
それは父のひとり子としての栄光であって、  
めぐみとまこととに満ちていた。」  
（ヨハネ1：14；教義と聖約93：11も参照）

1. 救い主の弟子たちは船に乗っ  
ていたときに、イエス・キリストが  
水の上をお歩きになっているのを見  
ました。彼らは「イエスを拝して、  
『ほんとうに、あなたは神の子  
です』と仰いました（マタイ  
14：33）。



5. 神はアダムに「まことに水の中  
で、恵みと真理に満ちている独り  
子、すなわちイエス・キリストの名  
によって、……バプテスマを受け  
る」ようにお教えになりました  
（モーセ6：52）。

2. イエスが弟子たちに「それで  
は、あなたがたはわたしをだれと  
言うか」とお尋ねになったとき、ペ  
テロは「あなたこそ、生ける神の子  
キリストです」と答えました（マ  
タイ16：15、16）。



3. イエスはラザロを蘇生させら  
れる前に、ラザロの姉妹であるマル  
タに、主が「よみがえりであり、  
命である」ことを信じるかとお尋ね  
になりました。彼女は「主よ、信じ  
ます。あなたが……キリスト、神の  
御子であると信じております」と  
答えました（ヨハネ11：25、27）。

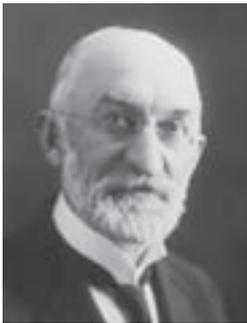


6. アメリカ大陸で、救い主の降誕の5年前に、レーマン人サムエルは「神の  
御子とその御名を信じるすべての人を贖うために来られる」と預言しました  
（ヒラマン14：2）。

詳しくは『福音の原則』（2009年）52－53；『真理を守る』11－14；  
リチャード・C・エッジリー“*The Condescension of God*,” *Ensign*,  
2001年12月号, 16－21を参照してください。

# 常に新しい物語

かつてこの地上に生を受けた人の中で、  
わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリスト以上に、  
この世の行く末に影響を及ぼした人はいませんでした。



教会の第7代大管長であるヒーバー・J・グラントは、1856年11月22日に生まれた。使徒に聖任されたのは1882年10月16日、25歳のときであり、大管長として支持されたのは1918年11月23日であった。以下の記事は『インブループメント・エラ』(Improvement Era) 1940年12月号、713、765ページに掲載された「昔の物語」(Story of Old)からの抜粋である。

## ヒーバー・J・グラント大管長(1856 - 1945年)

**イ**エス・キリストの物語は、常に新しい昔の物語です。主の生涯と働きについて頻繁に読めば読むほど、いっそう大きな喜び、平安、幸せ、満足で、わたしの霊は満たされます。イエスが地上での生涯の間に人々に教えられた言葉や、命と救いの計画についてじっくり考えるときに、わたしはいつも新たな魅力に引きつけられます。

わたしたちが皆知っているように、かつてこの地上に生を受けた人の中で、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリスト以上に、この世の行く末に影響を及ぼした人はいませんでした。それにもかかわらず、主の降誕は世に知られず、主は飼葉おけに寝かされました。イエスは、貧しく無学な漁師たちを御自分の使徒としてお選びになりました。イエスの十字架

から1,900年〔以上〕が過ぎ去りました。それでも世界のすべての地域において、すべての争いと混乱にもかかわらず、イエスの成し遂げられた業は神の業であったという証は、何百万人も<sup>あかし</sup>の心の中に今も燃え続けているのです。

天の父なる神とわたしたちの主イエス・キリストが地球を訪れ、再び人類に福音を明らかにしてくださったという事実についてじっくり考えることは、わたしにとって抑え切れない喜びの源であり、言い表せないほど心が満たされることなのです。わたしたちが携わっているこの業は神から出ているという知識を主から授かっていることを思うと、どのように表現したらよいかまったく分からないほど深い感謝で心が満たされます。わたしの思いが決して暗くなることなく、わたしが決してまっすぐな道から離れることなく、長い年月をかけて成長するにつれて理解を増し加え、神の御霊の光と靈感が心に燃え、理解力に光が注がれ、天の御父に確固として忠実に仕え続けられるようにと、わたしは常に熱烈に主に祈り続けています。

そして、わたしが末日聖徒に言いたいのは、わたしたちが携わっている業が神から出ているという証を受けたのであれば、日々の善い行いによって神の業に栄光をもたらすよう生活を整える義務があり、わたしたちの善い行いを見る人が神をほめたたえるよう、光を輝かせる義



日々の善い行いによって  
神の業に栄光をもたらすように  
しなければなりません。

務があるということです。地の表にいる人々の中で末日聖徒ほど祝福を受けた民はかつてありませんでした。わたしたちほど、神の優しさと憐れみと寛容の現れを体験した民はありませんでした。そして、わたしは言います。地上にいるどの男性女性よりも、わたしたちは、神のような高潔な人生を生きるべきなのです。

■  
原文〔英語〕においては、つづり、句読点、大文字が標準化されています。

# ティモシーのための 子守歌

苦しんでいる赤ん坊を見てわたしの胸は痛みましたが、  
2,000年前にお生まれになった御子から頂いた  
贈り物を思い起こしたとき、その痛みは薄らぎました。

キャサリン・クレメント・パウルセン

「赤ちゃんには障がいがあると  
思います」という助産師の  
ぞっとするような言葉を聞  
いたのと同時に、重度の機能障がい  
を持つ新生児を蘇生させるために、分娩  
室に人が集まって来ました。

わたしは以前に同じような場面に  
居合わせたことが何度もありました。  
でもそれは逆の立場、つまり看護師と  
してでした。通常、新生児を蘇生させ  
る役目は、わたしにありました。とこ  
ろが今わたしは母親として、搬送ス  
タッフが息子を別の病院へ連れて行  
こうとして待機している間、我が息子  
の手に触ろうとして、新生児用保育器  
の開口部から手を伸ばしていました。

翌朝、わたしは新生児集中治療室  
から電話を受けました。そこでは主  
人のアンドリューが医師たちに囲まれ  
て座っていました。医師の説明では、  
ティモシーはすぐに腹部の大きな腫  
瘍を取り除く手術を受ける必要があ  
るとのことでした。

わたしは、手術を受ければ子供は  
癒され、ごく普通に幸せな生活を送れ  
るという希望を最後まで捨てたくはあ  
りませんでした。ぽっちゃり太った息  
子がよちよち歩く姿を想像しました。  
想像の中の息子にあったかわいらし

い傷跡は、親としてつかの間の恐怖  
を味わったことの思い出にすぎません  
でした。

3週間後、同じ病院の会議室で、  
神経科医が難しい状況を説明してくれ  
ました。脳に奇形があり、そのため認  
知能力の重度の遅れ、言語障がい、  
最終的には発作が生じるとのこと  
でした。

それから数日後、同じ部屋で神経  
科医がこう言いました。「栄養チュー  
ブをつけないと、家へ帰ることはでき  
ませんね。」わたしたちの赤ん坊は  
出生時より1.4キロやせ細り、貧血で、  
刺激にほとんど反応しませんでした。  
哺乳瓶を与えても、吸い込む力が弱々  
しくて、のどをつまらせてしまいました。

赤ん坊について期待できることは  
まったくなくなってしまったように思え  
ました。わたしの世界は崩れ落ちて  
しまいました。耐えられないような試  
練は与えられないという主の約束を  
疑問に思いました。この重荷によっ  
て、わたしは肉体的にも、精神的に  
も、霊的にも、打ち砕かれたように感  
じました。日中病院で過ごす長い時  
間、二人の年長の子供たちと一緒に  
再び平穏な生活を始められたらどん  
なにいいかと思いました。家に帰っ

て来ると、赤ん坊の健康のことで頭  
がいっぱいになり、正直に言って、わ  
たしが考えることは、わたしたちの  
新しい生活がめっちゃめっちゃになっ  
たことばかりでした。

最も落ち込んでいたときには主に  
懇願しました。もし主がティモシーを  
みもとへ連れ戻し、わたしが息子の死  
を悼み、自分の人生を歩むことができ  
るようにしてくださるならば、ありと  
あらゆるすばらしい方法で主にお仕え  
しますと伝えました。それ以外のこ  
とは何もできなかったのです。

このような状況の中で、わたし自身  
に奇跡が起こり始めました。家族や  
親戚、友人をはじめ、ワードの多くの  
会員たちが、わたしたちの家族のため  
に断食して祈ってくれました。ある日  
曜日、朝起きると、皆の断食と祈り  
のおかげで、その日何か大きなこと  
が起きると強い気持ちになりました。  
もちろん、わたしはティモシーが突  
然動き出して、奇跡的に食物を取り  
始めることを望んでいました。新生  
児集中治療室へ着くと、いつもの  
ようにティモシーには反応が  
ありませんでした。哺乳瓶から  
栄養を取ることに関心を示す  
こともありませんでした。当然  
ながら、わたしはがっかり  
しました。と



ころが、赤ちゃんを抱いていると、この子は大丈夫だという強い気持ちがあったのです。「大丈夫」とはどういう意味か分かりませんでした。主がわたしたち家族を見守っておられ、心にかけておられると確信したのです。

数週間後、わたしは母と一緒に病院に立ち寄りました。静かな薄暗い部屋の中で、母はわたしのか弱い赤ん坊を胸に抱き、そっと揺すりながら、クリスマスの子守歌を歌いました。

「イエス様のお話を  
聞いて おやすみ しましょう  
海の 向こうの お国で  
かわい 赤ちゃん 生まれた  
ねんねん おやすみなさい  
母さんの 胸の中  
ねんねん おやすみなさい  
イエス様 守ります」<sup>1</sup>

平安はわたしの救い主を通してもたらされることが分かりました。救い主はわたしたち一人一人に平安と永遠の幸福をもたらすために地上へ来られたのです。確かに、主はこのかわいい小さな子を心にかけて、この子を世話するために選ばれたわたしたちを力づけてくださるのです。

数週間たつと、ティモシーは、今わたしが働いている特別新生児室へ移されました。そこで、奇跡的に食べる方法を身に付けました。わたしは再び、この子は大丈夫だという信じられないほど幸せな気持ちを感じました。ただし、非常に多くの点で改善が見られたにもかかわらず、わたしにはまだそのことの意味がはっきりとは分かりませんでした。けれどもそのとき以来、

深い慰めが心を満たしていました。そして普段ならよくよ悩みそうなことがあると、いつもその慰めが心を癒してくれたのです。メッセージはいつも同じでした。「心配ありません。すべては大丈夫です。ただ子育てを楽しんでください。」

クリスマスの季節を迎えて、救い主がわたしたちに与えてくださった美しい贈り物に思いを向けています。とても多くの方法で、主はわたしたちがこの地上で平安を得るようにしてくださっています。最も美しい平安の贈り物の一つだと感じているのは、祈りの気持ちでできるかぎりのことを行い、その後、わたしたちの悲しみを主にゆだねる機会が与えられているということです。

わたしたちは主に信頼を寄せることにより、心配を主にゆだねることができます。そうすれば主は、しばしばほかの人々を通して、わたしたちを支える特別な贈り物を与え、わたしたちを力づけてくださるのです。わたしにとってこれらの贈り物は、二人の年長の子供たちの子守りをしてもらえること、ワードの会員たちが届けてくれる食事、すばらしい看護師や医師たち、家族や友人からの愛のこもった助けなどの形で届けられました。しかし、最も力になった贈り物は天の御父から与えられた平安で、その平安は御子がわたしの悲しみや不安を背負ってくださったときに与えられました。主のおかげで、わたしは何の心配もなく幼いティモシーを愛し喜び、息子の特殊な生活ゆえに出会う人々や頂く祝福をすべてほめたたえることができるのです。■

注

1. 「イエス様のお話」『子供の歌集』48



Messiah  
ature

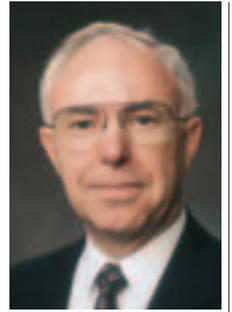


George Frideric Handel  
Handwritten musical notation on a dark background.



スペンサー・J・  
コンディー長老

1989年から2010年まで  
七十人として奉仕しました。



# ヘンデルと メサイア の贈り物

神から聖任を受けて奉仕した期間の終わりに、  
ヘンデルとともに、神が訪れられたことを認めることができますように。

**ゲ**オルク・フリードリヒ・ヘンデルは生まれながらの音楽家だったようです。ドイツで過ごした少年時代にバイオリンとオルガンが堪能になりました。最初のおペラをドイツで作曲した後、当時世界のオペラの中心地であったイタリアへ移り、イタリア様式の作曲で腕を試し、オペラや室内楽の作曲で幾らか成功を収めました。



中に見舞われ、右手が一時的にまひしてしまいました。医者はヘンデルの忠実な秘書にこう言いました。「人として生きていくことはできるでしょう。しかし、音楽家としては永久に無理でしょう。脳の損傷は一生治らないと思われます。」<sup>1</sup>

ヘンデルはその診断を受け入れることを拒みました。やがて、エクス-

ラ-シャペル（ドイツのアーヘン）にある温泉で受けた治療が功を奏し、体力を回復しました。近くの大聖堂でオルガンを弾いて試してみた後、歓喜の声を上げました。「冥界から戻ったぞ。」<sup>2</sup>

ロンドンへ戻り、オペラの作曲を再開しましたが、作品の受けはあまりよくありませんでした。そこで、再び借金取りに追われる生活が始まりました。深い落胆のうちに、こう思うようになりました。「再び埋没することになるだけなら、なぜ神はわたしに再生を許されたのだろうか。」<sup>3</sup> 1741年4月、ヘンデルは、これが別

1711年、ヘンデルは26歳のとき、イギリスへ渡ることにしました。イギリスでヘンデルのオペラやオラトリオは最初のうちは受け入れられました。ところが、1730年代になると、ドイツ語やイタリア語で歌うオペラに対する人気冷めてしまい、代わりに、「乞食オペラ」のような喜劇が好まれるようになりました。そこで、数年間、ヘンデルは狼のように恐ろしい借金取りを戸口から追い払うのに苦勞しました。

1737年、12か月で4つのオペラを作曲して肉体の限界に達した52歳の作曲家は、脳卒

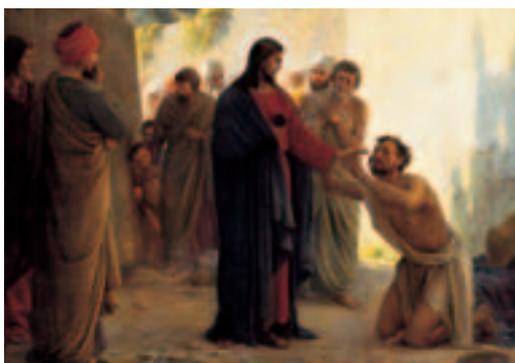


の降誕を預言し、主が教え導き、十字架にかかり、復活されることについて記されたイザヤ書からふんだんに引用されたものでした。オラトリオ用として書かれた作品でした。原稿を読み始めたヘンデルは、以前の失敗を考えると、また失敗しないか気がかりでした。

「慰めよ」という原稿の最初の言葉が、紙面から飛び出して来たかのように感じました。この言葉は長いことヘンデルのうえに重くのしかかっていた黒雲を追い払ってしまったのです。救い主の降誕と、死すべき人の子として地上にやって来るメシヤについてのイザヤの預言を述べる、天使のように清い言葉を読み続けるうちに、憂うつは薄らぎ、興味は興奮へと変わり、胸が温かくなっていきました。「ひとりのみどりごがわれわれのために生まれた」という言葉を読むと、ヘンデルが以前に作曲した懐かしいメロディーが心に流れ込んできました。「主は牧者のようにその群れを養い」と題するアリアの中で、愛にあふれた良い羊飼いのイメージが浮かんできたときには、鉛筆が紙の上を走るよりも速く音符が心に次々と浮かんできました。そして「ハレルヤコーラス」ではあふれんばかりの歓喜がみなぎり、それから「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる」という優しく気高い証<sup>あかし</sup>が続き、最後に「ほふられた子羊こそは」という言葉で作品の荘厳な幕が下りるのでした。

ヘンデルは生涯を通して作曲したすべての曲の後で、1741年の晩夏にわずか3週間で大部分を作曲したこの類のない作品メサイアで、ついに世界的な名声を得るのです。作曲を終えると、ヘンデルは謙虚に認めました。「神がわたしに訪れられたのです。」<sup>5</sup> ヘンデルのメサイアが伝えるこの上なく力強い証を受けるときに聖霊の力を感じる人は、そのとおりだと同感することでしょう。

ヘンデルはこのオラトリオ初公演の後援者たちに、メサイアの初回からすべての公演に



詩人である  
以前の共同制作者が  
ヘンデルに置いていった  
作品の原稿がありました。  
その台本は聖書、  
特にイエス・キリストの  
降誕を預言し、  
主が教え導き、  
十字架にかかり、  
復活されることについて  
記されたイザヤ書から  
ふんだんに  
引用されたものでした。

れのコンサートになるであろうと思いながら公演しました。彼は創造力を使い果たしました。ある伝記作家はこう書いています。「始めも終わりもなかった。ヘンデルは抜け殻のようであった。」<sup>4</sup>

同年8月、ある日の午後のことです。ヘンデルは長い散歩から疲れて戻ると、詩人であり、以前の共同制作者であったチャールズ・ジェンネンスが置いていった作品の原稿がありました。その台本は聖書、特にイエス・キリスト

## 「もしわたしがそこにいて」

南アフリカのある青年が書いた詞と曲が、クリスマスのみならず1年を通じて、わたしたち一人一人に救い主について深く考えさせてくれます。

**曲**はささやき声のように静かに始まり、メロディーが耳に届くのと同時に魂を満たしていきます。聖歌隊が次のように歌い始めるとき、曲はいっそう印象深くなります。

もしわたしがそこにいて、このイエスという名の大工が来るのを見ていたら、  
主に群がる数千人を目にしていたら、  
その後を追い、主の言葉に耳を傾けたらどうか。  
その御姿を目にしていたら、ひと目で主と分かったらどうか。  
その人がキリストだと気づいたらどうか。

聖歌隊を見ると、全員が心を込めて歌っているのが分かります。伴奏者がすべての和音を注意深く紡ぎ、音響技術者が全体の音のバランスを取って調和の取れたハーモニーに仕上げています。南アフリカ・プレトリアステークのヤングアダルトを見ると、彼ら自身も、生い立ちや経験を異にしながらかつとなり、声を合わせて主を賛美しているのが分かります。

そのすべての中心にいるのが20歳の指揮者です。彼こそ、作詞と作曲を一手に引き受け、リハーサルから上演まですべてを調整して、結果的に友人、教会員、町の人々、ひいては救い主や天の御父へのクリスマスプレゼントを作り上げた人物なのです。

近く専任宣教師として奉仕する予定のマイケル・マクラウドは当初、それが4つの礼拝堂で演奏され、それぞれ席を埋めた数百人の聴衆に感動を与えるような大規模なものになるとは予想もしていませんでした。彼はただ、救い主を礼

拝する助けになる曲と歌詞のカンタータを準備するという、ステークのヤングシングルアダルト（YSA）に割り当てられた責任に応じただけだったからです。もともと2009年の6月か7月に予定されていたプログラムでしたが、何度か延期になった後、12月に開催されることになったのです。

「ステークのYSA代表の二人から割り当てについて聞いたとき、すぐに『人の作った曲を借りるのじゃなく、オリジナル曲にしたらどうだろう』と言ったのです」とマイケルは思い出して言います。YSA代表は賛成しました。同時に、彼らはそんな企画をうまくやり遂げられるのはマイケル・マクラウドしかいないと知っていたのです。

マイケルはプレトリア大学の学生で、英語教育と数学教育を専攻しています。「ほんとうになりたいのは教師です」とマイケルは言います。しかし、昔から音楽に関心があり、実際、17歳までは真剣に音楽を勉強していたのです。

「音楽は趣味になり、今も大好きです」と説明します。「音楽は人を感動させることができる、というところが好きです。指揮をしていて、特に福音に関する音楽のときはそうですが、聖歌隊からエネルギーを感じられるのが好きです。」

会衆が音楽に引き込まれていくのを見るのも、彼らが御霊を感じる時に自分も御霊を感じるところも好きです。自分にとって音楽はとても大切ですから、一生かわりを持っていこうと思ひます。」

しかし、何よりも救い主について証を分かち合うのが大好きなマイケルですから、クリスマスの時期に音楽を媒介にして証できるのは最高の機会になりました。「肝心なのは、カンタータの音楽と歌詞を通して救い主に関する自分たちの証を分かち合うことでした。力強い音楽と力強い証の両方が欲しかったので、救い主を知っていた人々——マリヤ、ヨセフ、アンナ、シメオン、ペテロ、ヤコブ、愛弟子ヨハネ、マグダラのマリヤ、そしてキリストが癒しお教えになった人々——の証を聖文から選んで使うことにしました。彼らが知っていたことを観客に伝えることを目指したのですが、結果は非常に説得力のあるものになりました。救い主御自身の証も使いました。とてもうまくままりました。」



[www.liahona.lds.org](http://www.liahona.lds.org) でカンタータの一部をビデオで見ることができます。





福する業を行うための道具にすぎません。ヘンデルが自分の業績に与えられた栄誉に対して、「神が訪れられたのです」と言って、自分の力ではないことに気づいたように、わたしたちも気づかなければなりません。

5. **御言葉の力を決して過小評価してはならない。** 神の言葉には、この世の最も優れた才能ある書き手の話をはるかに超える力が宿っています（アルマ 31:5 参照）。
6. **作品が持つ真に霊的な意味は聖霊の証によって伝えられる。** 「人が聖霊の力によって語る〔あるいは歌う〕ときには、聖霊の力がそれを人の子らの心に伝える……。」（2 ニーファイ 33:1）
7. **力はわたしたちの言葉ではなく、神とその業の中にある。** 当時、宗教を公言する者たちについて、救い主はジョセフ・スミスにこう言われました。「彼らは唇をもってわたしに近づくが、その心はわたしから遠く離れている。……神を敬うさまをするけれども神の力を否定している。」（ジョセフ・スミス—歴史 1:19）ヘンデルはほかにも聖書の言葉を用いてオラトリオやオペラを作曲していましたが、その音楽の形式は聖文の力にふさわしいものではありませんでした。聖文とはすなわち、救い主の降誕

と務めについてのイザヤの力強い預言、または黙示録やルカおよびヨハネによる福音書に記された、それらの預言の成就の言葉です。ヘンデルのメサイアの中には、<sup>けいけん</sup>敬虔さに満ちた形式、**および**そこにある力の両方が見いだされます。メサイアの中では、唇**および**心が天へ近づくのです。

わたしたち一人一人は、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデルのように、この人生で創造的な霊の業に携わっています。死すべき命を養い育て、地上で義にかなった生活を送ることは霊的な業を達成することです。天から受ける靈感を敏感に感じ取り、わたしたちの労力の成果がほかの人を鼓舞するように靈感を受けることができますよう祈ります。ほかの人を助けようとするときに、わたしたちの霊的な創造性を抑え、啓示を遠ざける決まり切った古いやり方や、自分中心の知覚に縛られませんかのように。

エリザベス・バレット・ブラウニングはその叙情詩「オーロラ・リー」の中で、説得力のある思いを表現しています。

地には天の至福が満ち、  
 ごくありふれたしばも神により燃ゆる。  
 しかし、悟る者だけが靴を脱ぐ。  
 ほかの者は座って、黒イチゴを摘む。<sup>9</sup>

わたしたち一人一人が汚れた靴を脱ぎ、天の清い特性を持った仕事に携わりますように。また、さらに偉大で高尚な仕事をするべきときに、ただ黒イチゴを摘むようなことのないようにしましょう。

そして、神から聖任を受けて奉仕した期間の終わりに、ヘンデルとともに、わたしたちの働きの中に神が訪れられたことを認めることができますように。■

#### 注

1. シュテファン・ツバイク, *The Tide of Fortune: Twelve Historical Miniatures* (1940年), 104
2. *The Tide of Fortune*, 107 で引用
3. *The Tide of Fortune*, 108 で引用
4. *The Tide of Fortune*, 110 で引用
5. *The Tide of Fortune*, 121 で引用
6. *The Tide of Fortune*, 122 で引用
7. ドナルド・パロース, *Handel: Messiah* (1991年), 28 で引用。"A Tribute to Handel," *Improvement Era*, 1929年5月号, 574も参照
8. ラドヤード・キプリング, "If—," *The Best Loved Poems of the American People*, ヘイゼル・フェルマン選 (1936年), 65 で引用
9. エリザベス・バレット・ブラウニング, ジョン・バレット編, *Familiar Quotations*, 第14版 (1968年), 619 で引用



十二使徒定員会

ニール・L・  
アンダーセン長老

# 大切にすべき 価値ある贈り物

現代は多くの祝福をもたらしてくれましたが、  
聖霊の働きを促すものを手放さないようにしましょう。

**も**う50年以上前のことですが、1959年のクリスマスの朝のことは今でも鮮明に覚えています。新しい自転車が欲しくてたまらなかったわたしは、子供らしい期待で胸を膨らませていました。兄と姉とわたしは24インチの旧式の自転車1台を一緒に使っていました。3人ともその自転車で乗り方を覚えたのです。とっくの昔に流行遅れになっていたので、わたしは両親に新しい自転車をせがんでいました。思い起こすと、収入のわずかな家族にとってそんなプレゼントが大きな負担だと感じ取れなかった自分が少し恥ずかしくなります。

クリスマスの朝が来て、わたしは地下の寝室から一気に階段を駆け上がりました。居間に飛び込んで見回しましたが自転車はありませんでした。つるした靴下の下に置かれた小さなプレゼントに気づくと、わたしの心は沈み、そしてその失望を必死に隠そうとしました。

家族が居間に集まり、父がわたしに、兄のプレゼントが入った箱を開けるナイフを台所へ行って持って来るように頼みました。小さな台所へ行き、明かりをつけようと手探りでスイッチを探しました。部屋に明かりがともると、わたしの心は高鳴りました。目の前にピカピカの26インチの黒い自転車があったのです！わたしはそれから何年もその自転車に乗り、手入れをし、見守り、大切にしました。長年感謝し、大切にした贈り物でした。

## より大いなる贈り物

そのクリスマスのわずか3か月前、わたしは自転車よりずっと重要で大切な結果を生む別の贈り物をもらったばかりでした。バプテスマを受け、聖霊の賜物を受けていたのです。でもわたしは、救い主が「火と聖霊によるバプテスマを受けた。しかし、彼らはそれを知らなかった」と言われたレーマン人のように(3ニーファイ9:20)、幼かったそのころはもちろん、長年、それがどういうことかよく分かっていなかったことが多かったかもしれません。

イエスはバプテスマと聖霊の賜物には計り知れない価値があることを強調し、次のように言われました。「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ3:5)そして御自身が近く彼らのもとを去ると弟子たちに告げられたとき、彼らの不安を和らげるために天の賜物を授けると約束されたのです。「それ〔慰め主〕をあなたがたにつかわそう。」(ヨハネ16:7)

この賜物には途方もない力があります。聖文から、この賜物がそれを熱心に受ける者にどのようなものをもたらすか学ぶことができます。聖霊は「御父と御子のことを証」されます(教義と聖約20:27。第1コリント12:3;3ニーファイ28:11;教義と聖約42:17も参照)。すべてのことを教え、すべてのことを思い起こさせてくださいます(ヨハネ



14:26 参照)。真理に導き、来るべきことを知らせてくださいます(ヨハネ 16:13 参照)。わたしたちの思いを照らし、霊に喜びを満たしてください(教義と聖約 11:13 参照)。聖霊の力によって、わたしたちはすべての真理を知ることができます(モロナイ 10:5 参照)。神の奥義を明らかにしてください(1 ニーファイ 10:19 参照)。

聖霊はわたしたちを導き、なすべきことを示してください(1 ニーファイ 4:6; 教義と聖約 8:2

**キリストの弟子として、  
意識的に、祈りの心をもって、  
聖霊の賜物を  
毎日の生活の一部としなければなりません。**

参照)。わたしたちが教える人に靈感を与えてくださいます(2 ニーファイ 33:1 参照)。何よりも大事なことは、「バプテスマ……、および火すなわち聖霊」と贖いを通してわたしたちの罪の赦しをもたらされ(教義と聖約 19:31。2 ニーファイ 31:17 も参照)、最終的にわたしたちはこの賜物によって聖められて、終わりの日にキリストの前に染みのない状態で立つことができるということです(3 ニーファイ 27:20 参照)。

聖霊を常に伴侶とすることができるこの賜物はバプテスマと確認を受けた末日聖徒イエス・キリスト教会の会員にのみ与えられます。<sup>1</sup> 聖霊には真理を求めるすべての人を感化してくださる力がありますが、聖霊の賜物が完全な形で与えられるのは回復された福音の聖約をその身に受けた人に限られています。<sup>2</sup> この賜物は現実のものです。教会員に与えられる最高の祝福なのです。

聖霊は、祝福師、献身的な訪問教師、靈感を受けた友人という一握りの人に限定される賜物では

なく、天の家に帰る道を見つけたいと熱心に望むすべての人に約束されているものです。ウィルフォード・ウッドラフ大管長(1807-1898年)はすべての聖徒に聖霊が必要であると強調しています。「聖なる御霊を……得るために働きましょう。……これこそ、地上で神の目的を推し進めるために受けなければならない御霊です。ほかの何にも増してわたしたちが必要としている賜物です。……慰め主を受けるまで主に祈るべきです。バプテスマを受けたときに約束されたのはこの聖なる御霊です。それは光の霊、真理の霊、啓示の霊であって、同時にすべての人とともにあることができます。」<sup>3</sup>

### 個人の靈感の必要性

わたしたちは今、交通やコミュニケーション、利用できる情報が昔とは比較にならないほど進んだ時代に生きています。しかし、世間と末日聖徒が長い間一致してきた、正直、貞潔、安息日の遵守、家族への責任などの道徳的問題や、さらに命の尊厳といった問題にも、今やあらゆる面から解釈が加えられ、討論の余地ありと考えられるようになっていきます(教義と聖約 1:16 参照)。

技術とコミュニケーションの発達により、現代社会の波はますますわたしたちの生活に押し寄せているため、世にあって世のものとならずにいるには絶えず選択と決断が必要になります(ヨハネ 17:14 参照)。最も重要なのは霊的な識別です。キリストの弟子として、意識的に、祈りの心をもって、聖霊の賜物を毎日の生活の一部としなければなりません。十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長はこう言っています。「今日の世の中では、個々人が靈感を受けずに生きていくことはできません。これから先は、ますますそうなることでしょう。」<sup>4</sup>

この天から授かった賜物を、どうしたら日々の活動に不可欠な羅針盤として活用できるのでしょうか。過ちを犯したときでも、わたしたちが感じる静かな細い声が御父から来ていることを信じなければなりません。祈り、願い、求めなければなりません。そして心と思いに答えが与えられたときに恐れてはなりません。それが神から授かったものと信じる



のです。実際にそのとおりだからです。

1847年の2月、預言者ジョセフ・スミスが夢あるいは示現でブリガム・ヤングに現れました。ヤング大管長は聖徒たちに何か伝えることがあるか預言者に尋ねました。預言者はこう言いました。「この民に謙遜<sup>けんそん</sup>で忠実であるように、主の御霊を必ず保つように、そうすれば御霊は正しい道へと導いてくれると伝えてください。注意深くあって、細い静かな声を退けないように、そうすれば細い静かな声は何をなすべきか、またどこに行くべきかを教えてくれ、王国の実をもたらしてくれると伝えてください。兄弟たちに、**確信を与えるものに対して常に心を開いているように**、そうすることによって聖霊の訪れを受けたときにはいつでも受け入れることができるようにと告げてください。」<sup>5</sup>

啓示がほかの人にだけでなく自分にも与えられると信じることは、とりもなおさず、確信を受け入れる心の状態を保つこととなります。

### 聖霊の賜物の働き

教会員の日々の生活で聖霊がどのように働かれるかを表す例は数多くあり、どれも感動的です。大半は静かな個人的な経験であり、もたらされた変化を後で振り返って初めて、劇的な経験だったと分かるのです。今まで聞いた経験の中から幾つか挙げますが、読みながら皆さん自身の経験を思い出してみてください。

- ある女性が、子供の学校が始まったら就職しようと思いい、どんな仕事がいいか考えていました。聖餐会<sup>せいさん</sup>で座っていると、ステーキ会長が立ち上がって証し、聖文を読みました。「富やこの世のむなしいものを求めてはならない。……あなたはそれらのものを携えて行くことはできないからである。」(アルマ 39:14) その安息日、この聖句が彼女の心に深くしみ入り、それからの1年に何をすべきか霊的な確認を受けたのでした。
- 8歳の子供がバプテスマを受けて教会員として確認され、父親と祖父の手によって聖霊の賜物を受けました。証を述べるために喜び勇んで立ち上がった男の子でしたが、思いがけない感情の高ぶりによって、ほとんど口が利けなくなってしまいました。ある兄弟がそのときの経験をこう言っています。「そのとき御霊の影響をととても強く感じました。」
- 一人の宣教師が同僚と一緒に、前にモルモン書を渡した求道者の家を訪ね、ドアをたたきました。年配の女性がドアを開けたとき、宣教師は強い感情が押し寄せるのを感じました。女性は彼らを歓迎すると、モルモン書を読んで彼らが教えたことが真実だと信じていると説明しました。若い宣教師はそのとき感じたことに強い感銘を受け、こう祈りました。「お父様、今日感じた気持ちを決して忘れることがないようにお助けください。」
- 故郷を遠く離れて大学に通う若い学生がどうしようもない孤独感に悩まされるようになりました。彼女は、この危機に助けが与えられるよう繰り返し祈り求めました。ある朝、講義中に不思議な慰めを感じました。「あなたは決して独りではない」という思いが心に浮かびました。祈りはこたえられ、ホームシックはすっかり消えていました。
- ある忠実な父親が、誤った選択の代償を払うこととなった息子を迎えているときのことです。息子のもとに到着するまでの長い無言の数時間、父親は息子の過ちに対して悲嘆に暮れながら祈っていました。すると、心にはっきりと間違えようのない思いが浮かびました。「彼はあなただけの息子ではない。わたしにとっても息子なのだ」と。
- 16歳のローレルの少女が日曜学校のクラスで教師の言葉に耳を傾けていました。復活祭の時期だったので教

師は贖いについてレッスンを準備していました。救い主が堪え忍ばれた苦しみについて教えるに当たり、教師は、すべての毛穴から血を流すこと、鞭打たれ十字架上で苦しむことがどのようなことか話しました。それまで彼女は贖いについてそれほど詳しく考えたことはありませんでした。頭の中にその情景が広がっていきました。25年以上たった今も、感情を込めてこう語ります。「あの日、聖霊が、イエスがキリストであることを証してくださったのです。」

### 従順の大切さ

この時代、わたしたちは最も有害な悪に囲まれて生きています。コミュニケーション技術は生活に多くの素晴らしいものをもたらしましたが、同時に地域社会に入り込み、あるいは用心しないと家庭さえ侵略し、あっという間に聖霊の賜物に対する感覚をまひさせてしまいます。自分の霊に影響を及ぼすものについては、どのようなものにそれを許すべきか、慎重にならなければなりません。

静かな細い声についてもっと明らかに理解し、信じたいと願うなら、もっと従順になるのが最も効果的です。イエスは弟子たちに向かって言われました。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」(マタイ 16:24)

大管長会第二顧問であったジェームズ・E・ファウスト管長(1920 - 2007年)は、正しい声を選択し従うための簡単な解決法を提案しています。「御霊の声を聞き、御霊の声に従うのです。これは昔ながらの方法であり、永遠に不変の方法です。常に新しいものを追い求める社会では、あまり好まれられないかもしれません。どんな欲求もすぐに満たしたがる世にあって、この方法には忍耐が必要です。派手で途切れることがなく、絶えず変化し、けばけばしく、露骨なものが席卷する世にあって、この方法は静かで、繊細であり、平安をもたらします。この方法を用いるには瞑想する必要があります[ます]……。この方法を用いるには、目に見えるものが支配する世にあって、信仰をもって歩む必要があります。』<sup>6</sup>

### 深く考える時間

1950年代から1960年代にかけてアイダホ州南部の小さな農場で育ったわたしの少年時代に比べ、息子や娘たちの生活がどんなに違うか時折考えることがあります。一日中



父と一緒に塀を建てて過ごした日々、静けさの中、何時間もジャガイモ畑で灌漑用のパイプを移動させたこと、家には3つのチャンネルしか映らないテレビが1台あるだけで、コンピューターもMP3プレーヤーも携帯電話もなく、近くの町以外に遠出することはめったになくて、気を散らすもの少ない、家族と過ごす時間がたっぷりあった生活——こういうものが、わたしの世代の多くの人たちのひととなりを形成してきたのです。

今日の世界では、子供にじっと深く考える時間を提供し、静かな細い声に耳を傾ける方法を教える必要があります。現代は多くの祝福をもたらしてくれましたが、聖霊の働きを促すものをないがしろにはなりません。独りで祈り、深く考え、瞑想し、聖文を読む時間を持つことと、騒音や気を散らすもの、度を越した活動にじゃまされることなく家族との時間を持つことが大切です。

### 御霊のささやきに従う

心に浮かぶ思いに従うことにより、それが確かに御父からのものであると信頼できるようになります。「成長」して(教義と聖約 109:15)、この声を認識できるようになるのです。

トーマス・S・モンソン大管長は、御霊のささやきに従うことを決して後回しにしてはならないと総大会で忠告しています。「わたしたちは心を澄ませて待ちます。あの『静かな細い声』に耳を傾けるのです。御霊が語る時、賢い人は従います。御霊のささやきに従うのを後回しにしてはいけません。」

それからモンソン大管長は、病気のために半身不随になったスタンという友人との経験を紹介しました。医学の粋を尽くした治療と家族や友人の祈りにもかかわらず、スタンは寝たきりの生活を余儀なくされ、希望を失い始めていました。

「ある日の午後、わたしはデゼレトジムで天井を見詰めながら背泳ぎをしていました。そのとき、静かではあってもはっきりと、ある考えがわたしの頭に浮かびました。『おまえの友人スタンは病院のベッドで身動きもできずにいるというのに、おまえは悠々と水泳などしている。』そして、御霊のささやきを感じました。『病院へ行ってスタンに祝福を授けなさい。』

わたしは泳ぐのをやめ、服を着てから病院のスタンの部屋へと急ぎました。ベッドは空っぽでした。治療に備えて車いすでプールの所へ行ったと看護師が教えてくれました。急いでそこに行くと、スタンがたった独りでプールのいちばん深い所の縁にいました。あいさつを交わしてから、彼の病室に戻り、そこで神権の祝福を授けました。」

最終的に、足に力と動きが戻ってきて、スタンは再び歩けるようになりました。モンソン大管長はこう続けています。「彼の話によれば、あの日の午後、プールの縁で車いすに座り、絶望的な人生を宣告されたように思ったとき、憂うつな暗い思いにふさがれたそうです。そして、それから逃れる方法はないかと考えました。深いプールの穏やかな水面に向かって憎らしい車いすを押し出すのは容易なことでした。そうすれば、すべては終わります。しかしちょうどそのとき、友人であるわたしの姿が目に入ったのです。スタンはその日、文字どおり、人は独りで歩くのではないことを知りました。その日、わたしもまた教訓を得ました。それは決して、決して、決して、御霊のささやきに従うのを引き延ばしてはならないということです。」<sup>7</sup>

再臨について話された際、主は聖徒たちの中で聖霊の賜物が大いに作用しなければならぬと強調されました。「賢くて、真理を受け入れ、自分の導き手として聖なる御霊を受け、そして欺かれなかった者、すなわち、まことにわたしはあなたがた

に言うが、彼らは切り倒されて火の中に投げ込まれることなく、その日に堪えるであろう。」(教義と聖約 45:57)

わたしたちはチャンスや学問や繁栄に恵まれたすばらしい時代に生きています。しかし、このようなすばらしいものにも人をおとしめようとするサタンの欺瞞(きまん)を伴うことがあり、それはどうにかしてわたしたちの生活の隅々にまで割り込み、安全な避難場所である家庭にまで潜り込もうとします。わた

こんにち  
**今日の世では、**  
**子供にじっと深く考える時間を提供し、**  
**静かな細い声に耳を傾ける方法を**  
**教える必要があります。**

したちが聖霊を導き手として受け、その賜物を知り、守り、よりいっそう強めるなら、惑わされることはありません。世に悪がはびこるにつれ、それを相殺するように義人に与えられる聖霊の賜物の力も強まります。

この天より授けられた賜物をいっそう大切にするとき、わたしたちは「その日に堪え」、再び天の御父とともに住むことができるようになるのです。■

**注**

1. 『歴代大管長の教え——ウイルフォード・ウッドラフ』49 参照
2. グリン・H・オークス「いつも御子の御霊を受ける」『聖徒の道』1997年、1月号、66-69 参照
3. 『歴代大管長の教え——ウイルフォード・ウッドラフ』41、51
4. ボイド・K・バック「啓示をもたらす敬虔さ」『聖徒の道』1992年1月号、25
5. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』98、強調付加
6. ジェームズ・E・ファウスト「御霊の声」『リアホナ』2006年6月号、6
7. トーマス・S・モンソン「霊は人を生かす」『聖徒の道』1985年7月号、69、70

七十人が語る

# クリスマス

七十人定員会の会員が、クリスマスをどのように祝い、救い主の降誕を思い起こしているのかについて分かち合ってください。



**家** 族一人一人にとってクリスマスを意義あるものとするために、どのように祝うことができるでしょうか。救い主をクリスマスの中心とするにはどうすればよいのでしょうか。どのような伝統を築くことで、主と主の降誕を思い起こす助けが得られるでしょうか。

様々な国の様々な文化的背景を持つ七十人定員会の会員たちが、自分自身と家族のために上記の質問にどのように答えてきたかを分かち合ってくださいました。以下に、彼らが紹介してくれたクリスマスの大切な思い出や証、<sup>あかし</sup> 伝統を掲載します。(括弧内に出身地が記されています。)



**マルコス・A・アイトカイトイス長老 (ブラジル)**

——わたしと家族にとって、クリスマスは神聖な事柄について話すことができる、とても特別な機会です。恐らくこのように改まった雰囲気の中で家族で語り合うことは一年中でほかにないでしょう。人々に愛を示し、生活の中で起こった様々な事柄に対する感謝を表す機会でもあります。



**デビッド・S・バクスター長老 (スコットランド)**

——子供たちが幼いころ、クリスマスイブにはキャロリングをしながら、ワードのあまり活発でない家族にプレゼントとしてユールログ〔訳注

——クリスマスに燃やす薪<sup>まき</sup>〕を届けたものです。クリスマスイブにはろうそくの明かりの中でクリスマスの物語を読み、家族で特別な食事をし、ともにクリスマスを楽しみました。



**ジェラルド・コセー長老 (フランス)**——

家族で話し合った結果、クリスマスにはただ一緒に楽しい時間を過ごすだけではなく、キリストに心を向け、人々に奉仕しようと決めました。そして約10年前、家族で聖歌隊を組織し、病院や老人ホームを訪問して、クリスマスの歌を歌いました。最初は小人数で、赤ん坊を抱いたり、ベビーカーに乗せたりしながらの訪問でしたが、その赤ん坊たちも成長して、今では立派な聖歌隊員となりました。現在はメンバーも44人に増え、フランスの伝統的なクリスマスの歌だけでなく、教会の賛美歌も歌い、大成功を収めています。歌の後、子供たちが病気の

# の伝統

人やお年寄りのところへ行き、家族で準備した小さなプレゼントを渡します。時間を取って一人一人に声をかけ、クリスマスのほんとうの意味について話したり、相手の話に耳を傾けるようにしています。だれもが多くのことを語り聞かせてくれます。

聖歌隊として訪問することは、クリスチャンであるとはどのようなことか、キリストの名を受けるとはどのようなことかを思い起こす特別な機会です。クリスマスは、一年を通してどのように生活したらよいかを改めて考えさせてくれる時です。



**エドアルド・ガバレット長老 (ウルグアイ)**——クリスマスはわたしたちの生活で特別な時であり、この時季にはいつも温かい気持ちに満たされます。12月になると、クリスマスは家族とともに過ごす、平安な時であることに気づきます。わたしたち家族は友人たちに手紙を書くのを伝統としていますが、特に楽しみにしているのは、救い主に手紙を書き、その手紙を救い主への贈り物としてクリスマスツリーに飾ることです。



**カルロス・A・ゴドイ長老 (ブラジル)**——わたしたち家族は、モルモン書に証を書き、クリスマスプレゼントとして友達や親戚に送ります。クリスマスなので、プレゼントはいつも歓迎されます。これは福音を分かち合うためにも、また、クリスマスで最も大切なのはキリストであることを思い起こすためにも良い方法です。



**クリストフェル・ゴールドン・ジュニア長老 (南アフリカ)**——クリスマスイブには、食卓を囲んで夕食を楽しんだ後、ルカ伝に書かれた救い主の降誕の物語を読みます。クリスマスの朝は、よそ行きの服装でクリスマスの短い集会に出席します。この集会には、教会員でない人や、普段あまり教会に来ない会員もたくさん出席します。その後、親族の集まりに参加して友人や家族と交わり、真のクリスマスの精神に満たされながら家族のきずなを強めます。



**ドナルド・L・ホールストロム長老 (アメリカ合衆国)**——何年もの間、クリスマスイブには家族で集まり、心温まる、思い出に残る証会を開いていました。家族一人一人が救い主や天の御父に対する気持ちを分かち合いました。それから、そのような深い愛が互いに向けられ、家族への心からの愛が述べられました。それから父が家族について抱いている展望を語り、信仰に忠実であり続けるように一人一人を力強く励ましてくれました。そして、心を合わせて、ひざまずいて閉会の家族の祈りをささげました。



**ポール・V・ジョンソン長老 (アメリカ合衆国)**——わたしたち家族は、毎年ヘンデルの「メサイア」を歌うコーラスに参加します。家族が大好きな伝統の一つです。それぞれが楽譜を持っているので、美しい歌詞をヘンデルの曲に乗せて歌いながら、救い主の務めに思いをはせます。



**菊地良彦長老 (日本)**——クリスマスの30日前から、わたしたち夫婦は救い主の降誕について聖典に書かれた預言者の言葉を読むようにしています。12月25日まで毎日、物語や聖句を一つ一つ読み進むにつれて、次第にクリスマスの精神が高まっていきます。それが、わたしたち家族が努めて行おうとしていることです。

わたしは、ニーファイが天使の質問に対して答えた言葉をいつも思い出します。ニーファイは父親が夢で見た木の意味について天使から尋ねられ、こう言いました。「はい、その木は人の子らの心にあまねく注がれる神の愛です。」(1ニーファイ11:22) わたしにとって、クリスマスは天の御父とイエス・キリストの愛を思い起こす時です。



**エリック・W・コピシュカ長老 (ドイツ)**——この時季、家全体が目に見えて変わります。もみの木の枝には飾り付けがされ、窓にはろうそくの飾りが置かれ、デコレーションライトが幾重にもつるされます。子供たちはそれぞれ自分の部屋にクリスマスの飾り付けをし、クッキーやジンジャーブレッドが用意され、もみの木とシナモンの良い香りが家中に漂います。



わたしたち家族にとって、クリスマスイブは、親族や友人を家に招いて過ごすお気に入りの日です。ろうそくをともし、暖炉に火をおこします。わたしたち家族は、好きなクリスマスの歌を収めた特別な歌集を作りました。わたしがアコーディオンを取り出すと、全員が1曲ずつクリスマスの歌を選び、一緒に歌います。特別な雰囲気に含まれながら、全員が楽しいひとときを過ごします。

そしてプレゼントを開けます。真っ先に開けるのは幼い子供たちです。その様子を全員が眺めながら、プレゼントの箱が開けられる度に、興奮を分かち合います。プレゼントを全部開けてしまうと、子供たちは宝物を手に、あっという間に姿を消します。大人たちはその場に残り、おしゃべりを楽しみます。ほんとうに、特別な家庭の夕べのようです。

時には、独りでクリスマスイブを過ごそうとしている人を招待することもあります。そんなときは特にすばらしいクリスマスになります。



**マイケル・ジョン・U・テー長老 (フィリピン)**

——わたしにとってクリスマスとは、キリストと家族を意味します。天の御父と救い主との関係をさらに強め、より良い夫や父親になるという決意を再確認する機会です。わたしは、一年を通して聖餐会

に出席する機会を感謝しています。それはわたしにとって、聖約を新たにし、クリスマスを思い起こす時だからです。救い主を覚えることを再び決意することで、毎週をクリスマスのようにすることができます。



**ジョセ・A・ティシェラ長老 (ポルトガル)**

——わたしたち家族にとって、クリスマスの時季だけでなく、一年を通してクリスマスの精神を持ち続ける最良の方法は、聖文を読むことです。家族皆で聖文を読むとき、わたしたちは救い主とクリスマスの真の精神を思い出します。

家族とわたしにとって、クリスマスとはまさにイエス・キリストそのものです。与える時であり、受ける時であり、家族のきずなをさらに強める時であり、周囲の人々にさらに愛を注ぐ時です。



**フランシスコ・J・ビーナス長老 (スペイン)**

——1989年、アルゼンチンのサルタ伝道部で伝道部会長として奉仕していたときの経験を分かち合いたいと思います。それはクリスマスの数日前



のことでした。アメリカ合衆国がパナマに侵攻したため、連絡があるまで宣教師はアパートにとどまるようにという指示を宣教師管理部から受けました。

12月24日の朝、わたしたちは伝道部の車に分乗し、伝道部を二つの地域に分けて、それぞれ車を走らせました。補佐たちは伝道部の北部地域へ向かい、わたしと8歳の息子は南部地域へと向かいました。宣教師のアパートを一軒一軒訪問し、食べ物を届け、クリスマスのメッセージを伝えるためです。それは息子とわたしにとって、すばらしい経験となりました。各アパートを訪問し、宣教師たちとともに過ごすことは、わたしたちにとってすばらしい経験でした。この経験は、特別なクリスマスの思い出として、いつも大切に心に留めています。

わたしと息子は、12月25日の朝、伝道本部で待つ妻と二人の娘のもとへ帰りました。クリスマスイブに家族が離れ離れになったのは初めてのことでしたが、わたしたちにとって、最も忘れられないクリスマスになりました。



**ホルヘ・F・ゼバヨス長老 (チリ)** —— イエス・キリストが生きていて、わたしたちの救い主、<sup>あがな</sup>贖い主であられるという証があるとき、主に愛を示す最善の方法は、主の戒めに従順であることです。ですから、わたしにとって主を覚える最善の方法は、クリスマスの時季だけではなく、毎日、主がわたしたちになすようにと言われたすべてのことに従順であることです。



**クラウディオ・D・シビック長老 (アルゼンチン)** —— わたしと家族にとって、クリスマスは、救い主、贖い主であるイエス・キリストの降誕を祝い、また、クリスマスイブに家族で集まって家庭の夕べを開くことを意味します。全員が参加して、ベツレヘムの<sup>おきなご</sup>幼子の降誕という特別な出来事を演じたり、読んだり、歌ったりします。これまでずっと、わたしたちの家庭では、最も大切な日をこうして祝ってきました。そして日々福音に従って生活することによって、クリスマスの精神を持ち続けようと努力しています。■

# 贈り物

ジョアン・M・オレニッチ

**わ** たしの好きなクリスマスの歌の一つに、ヘンデル作曲の「メサイア」の1曲である、「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた」があります。この曲を聞く度に、クリスマスとは何かを思い出します。天使ガブリエルから「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」と告げられたとき、マリヤはどのように感じたのだろうかと考えることがよくあります（ルカ1：28）。

天使の言葉を聞いて、マリヤはひどく胸騒ぎがしました。すると、天使が続けてこう言いました。

「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。

見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。

彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、

彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう。」（ルカ1：30－33）

これはどんなに驚くべき経験だったことでしょう。マリヤに約束された息子が、天の御父の肉における独り子となる御方であったとは。彼女は、人類の救い主イエス・キリストを、最もすばらしい贈り物として世にもたらすために選ばれていたのです。

天の御父はこの贈り物を、老いた者や若い者、富める者や貧しい者を含め、あらゆる人に与えてくださいました。店を巡り歩いて探す必要もなければ、一銭のお金もかかりませんでした。輝く包装紙で包まれてもいませんでした。すべてのものの中で最も貴い贈り物である御方は、布にくるまれ、かいぼ飼葉おけに寝かされていました。天の御父が愛をこめて、すべての人のために送ってくださったのです。■

イエス・キリストがどのようにあなたの人生に触れてくださったかを教えてください。救い主の務めや使命についての思いや、福音に関する経験に基づいた話をお待ちしています。贖罪、恵み、癒し、希望、悔い改めなどのテーマが考えられるでしょう。原稿は日本語で1,500文字（英語では500単語）以内で、件名を“We Talk of Christ”として [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) にお送りください。

## あなたがたは天使でした

**ポ**スターを見たとき、わくわくしました。それは「スワンシー管弦楽団とウェールズ合唱団によるヘンデルのメサイア」というポスターです。

わたしは6か月間、ウェールズのスワンシーで伝道しており、クリスマスの季節に新しい宣教師がしばしば経験するホームシックにかかっていた。クリスマス休暇には毎年家族と一緒に

行くことがたくさんありましたが、わたしが大好きなのは、ヘンデルの「メサイア」を聴きに行くことでした。母はこのような演奏会で何度もオルガンを弾いていて、わたしはいつも席に座り、耳を傾け、その曲を体で感じてきたものです。

わたしは伝道部会長の許可を得て、同じ地域で伝道している宣教師のためにチケットを購入しました。公演の日の夜、わたしたちは寒くないように服を着込んで、コンサートホールまで歩いて行きました。わ

たしは、皆がその靈感あふれる曲の神聖さを感じられるようにと、心の中で祈りました。

会場に到着すると、わたしたちは遅れていて、すでに演奏は始まっていた。そのため、休憩時間まで中に入れてもらえません。ドア越しに聞こえてくる演奏に、わたしは涙を抑えられませんでした。

わたしががっかりしているのに気づ

いたのでしょう。案内係の人はコーラスの妨げにならないように、休憩時間までは会場の後方に立っているようにと言い、そっとわたしたちを中に入れてくれました。彼はゆっくりとドアを開け、わたしたちは全員、静かに中に入りました。

ホールに入ると、まるで天国に入ったようでした。わたしは非常に大きな平安と喜びを感じました。ところがすぐに、人々が振り向いて、わたしたちの方を指さし、じっと見ているの

に気づきました。わたしたちは皆静かに入ったので、どうして注目を集め

**コ**ンサートホールに入ると、まるで天国に入ったようでした。ところがすぐに、人々が振り向いて、わたしたちの方をじっと見ているのに気づきました。

たのか分かりませんでした。休憩時間になるとすぐに、わたしたちは自分たちの席を見つけました。

再びオラトリオが始まると、わたしの心は音楽で満たされました。「ハレルヤコーラス」の間、またソプラノが「わたしは知る、わたしを贖う者は生きておられる」を歌ったとき、わたしは泣いてしまいました。近くにいた宣教師たちも、その曲の力を感じてハンカチを握り締めました。それはいつまでも忘れられない経験でした。しかし、ほんとうに忘れられない瞬間が訪れたのは、演奏が終わった後のことでした。

わたしたちが会場を去ろうとしたとき、人々はまだひそひそと話し、わたしたちを指さして見ていました。それでも、わたしたちが外に出るまで、だれも何も言いませんでした。その後、一人の男性が近づいて来て、「あなたがたがそうだ。あなたがたがそうだ」と言いました。

わたしたちは皆何のことか分からず、彼が話したすのを待ちました。

「わたしたちは演奏の最初のパート

## わたしは預言者ジョセフを擁護しました

を聴いていたとき、会場内にある変化を感じたのです。キリストがそこにおられると、強烈に感じました」と、その男性は言いました。「それで、そのように変わった原因は何かを知ろうとして振り向いたのです。ホールの後方を見ると、まるで天使のように輝きを放っている7人の姿が見えました。あなたがたが会場に入って来たとき、聖霊を伴っていました。あなたがたはキリストの代わりにそこにいたのです。ですからあなたがたは天使だったのです。」

彼が話していたとき、わたしは自分の宣教師の名札に目をやり、名前の下の太文字で書かれている「末日聖徒イエス・キリスト教会」という文字を見ました。その瞬間に、わたしは、自分がメシヤの代理人であること、そしてその夜に数千の人々の前で何も言わずにメシヤについて証<sup>あかし</sup>できたことで、どれほど謙虚な思いになったことでしょう。■

ハイジ・ウィンディッシュ・フェルナンデス  
(アメリカ合衆国オレゴン州)

1978年にわたしは印象深い夢を見ました。夢の中で二人の人がわたしを訪れ、彼らと話す、とても大きな喜びを感じました。その幸せな気持ちは、翌朝起きてからもまだ続いていました。

まさにその日、末日聖徒の二人の宣教師が我が家のドアをノックしました。そして、メッセージを伝えてもよいかと尋ねました。夢のことを覚えていたわたしは、承諾して彼らを家に招き入れました。夫は気が進まない様子でしたが、何も話をせずに帰ってもらうには忍びないとわたしが言う、了承してくれました。

その日、宣教師たちはとりわけ預言者について教えてくれました。わたしは、アブラハムやモーセなど聖書の預言者についてはよく知っていました。しかし、宣教師たちは、現代の預言者ジョセフ・スミスについても教えてくれました。レッスンの最後に、長老たちは、また来てもっと話をしてもよいか尋ねました。わたしは、はいと答えました。

何度かの話の後、宣教師たちはわたしにバプテスマを受けるように勧めました。わたしはそれまでに学んだ事柄は正しいと思いました。しかし、バプテスマの前にジョセフ・スミスについて証<sup>あかし</sup>を得たいと思いました。宣教師から教えてもらったすべての事柄の中で、最も受け入れ難かったのが彼の話でした。しかし、誠実にそのような証を求めれば、天の御父はそれが真実であることを確信させてくださると知っていました。

わたしは自分が子供のころから通った教会の牧師の一人に会いに行きました。そして、宣教師が教えてくれた事柄について話し、彼らにもう一度会いたいと強く感じると告げました。わたしがほかの事柄について話す前に、その牧師は、ジョセフ・スミスは精神的に問題のある夢想家だと言いました。

すると突然、「ジョセフ・スミスはまことの預言者です」と告げる声が聞こえました。わたしは心臓の鼓動が高鳴るのを感じ、まだバプテスマを受けて教会には入っていませんでしたが、自分自身が回復の預言者を擁護しているのに気づきました。

牧師のオフィスを出たとき、その確信はさらに強くなりました。わたしは自分の答えを受けており、息子たちをどの教会で育てるべきか分かったのです。

その後少しして、わたしはバプテスマを受け、自分の知ったことを伝えたいという強い気持ちを感じました。わたしは、預言者ジョセフ・スミスについて霊的な確認を受けていました。ですから、自分が人生で今得ている喜びをほかの人々にも味わってもらいたいと思いました。わたしのバプテスマの2年後、夫も教会に加わり、その喜びを味わいました。

わたしは、地上に再び預言者がいる時代に生きていることを感謝しています。預言者の導きのおかげで、わたしには従うことのできる確かな道があるのです。■

マリア・ブランド(イタリア)

ポーチに、  
食べ物と

そのほかの日用品が  
入っている

大きなバスケットが  
ありました。

おもちゃも幾つか  
ありました。

わたしたちは、  
間違って届けられたものだ  
と思いました。



## 最良のクリスマス

**わ**たしが幼かったころ、ある年の12月に母が重い病気になりました。飲んでいた薬のせいで、母の体は非常に疲れ、一日およそ18時間も眠っていました。

母は独身だったので、姉とわたしは家事をやってみようと思いました。しかし、二人は幼く、経験がなかったため、あまりうまくできませんでした。母が病気になって数日もすると、食べる物がなくなってきました。台所を探していると、玄関のベルが鳴りました。

ワードの姉妹が、食事を手にしてポーチに立っていました。彼女はわたしたちが困っていることを知りませんが、夕食を持って来てくれたのです。彼女は、母が病気になってどれくらいか、またそれほどの長い間自分たちだけでどうしていたのかと尋ねま

した。わたしたちは何とかやっているときっぱりと言いましたが、食事を提供してくれた親切に感謝しました。

この姉妹はわたしたちの家から帰ると、扶助協会会長に電話をかけ、わたしたちの家族の状況を知らせました。翌日、またその後何日も長い間、ワードの会員たちが我が家に食事を届けてくれました。わたしたちはどんなに感謝したことでしょう。すぐに食べないものは冷凍しました。ワードの会員の親切のおかげでその後3か月間、わたしたちの家族には十分な食べ物がありました。しかし、ほかの人々から受けた親切はそれだけではありませんでした。

クリスマスが近づくころには、母は少しずつよくなっていましたが、以前の状態までには回復していませんで

した。おじが、およそ40マイル(約65キロ)離れたコペンハーゲンから我が家に来て、祝日の準備を手伝ってくれました。おじは優しい人で、できることは何でも行い、クリスマスツリーと家族のお祝いの食事を準備してくれました。また、姉とわたしのためにプレゼントを幾つか買ってくれました。わたしたちも、母とおじのために小さな贈り物を買いました。わたしたちは感謝すべきことがたくさんあると分かっていたのですが、子供であったため、今年ほどんなクリスマスになるのかと少し気持ちが沈んでいました。

クリスマスイブに玄関のベルが鳴りました。窓の外を見ましたが、だれも見えません。わたしはいたずらに違いないと思いましたが、姉はとにかくドアを開けるように言いました。するとポーチに、食べ物とそのほかの日用品が入っている大きなバスケットがありました。おもちゃも幾つかありました。わたしたちは、間違って届けられたものだと思います。そこで隣の家に行き、そのバスケットはその家に届くはずのものではないかと尋ねようとしたのですが、留守でした。その後で、すべての贈り物にわたしたちの名前がはってあるのに気づきました。わたしのおじの分もありました。だれかがわたしたちのことを思っていてくれたのです。

その年にわたしの家族が受けた匿名の親切な行いにより、暗く悲しかったクリスマスは、わたしの生涯で最良のクリスマスになりました。わたしたちが人々から受けた思いやりと愛は、今日もわたしに影響を与え続けているのです。■

モーテン・ソンドースコフ(デンマーク)

## プレゼントはだれでしょうか

**わ**たしたちが結婚して2度目のクリスマスを迎えた1982年、クレトとわたしは、家族の伝統となることを始めようと決めました。わたしたちは自分の家族の中で最初の教会員でしたから、過去のクリスマスのお祝い、幸せな思い出ではありましたが、心からの思いやりと奉仕が欠けていました。それに、わたしたちの最初の子供、生後8か月のディエゴのために、わたしたち自身をこのように改善したいと思いました。

わたしたちは、大学の勉強、家事、教会の召し、親として初めて学ぶすべての事柄でかなり多忙でしたが、この特別な機会のための準備に一生懸命取り組みました。わたしたちは12月の毎回の家庭の夕べで、飾り付けを作り、また至る所で目にするクリスマスのシンボルや色についてもっと理解を深めるようにしました。また、簡単な夕食の準備を計画し、役に立つものであまり高価でない

贈り物を考えました。聖文学習プログラムを始めたとき、キリストの降誕を祝う方法をほんとうに変えるには、救い主のためにも贈り物を考えるべきだと分かりました。

わたしたちは、「天と地の万物を治めておられる御方にささげるものは何だろうか」と考えました。聖典にその答えがあり、「これらの最も小さい者のひとりに」(マタイ25:40)することはその御方にすることであると述べられています。クリスマスは友愛の季節、そして愛を示す時ですから、わたしたちは、自分の家庭で感じる温かさや心地よさを教会員に味わってもらうため、我が家に招待したいと思いました。何か励ましを必要としている人を見つけ、その人を助けること、それが救い主へのクリスマスプレゼントになると思い、そのような人を懸命に探しました。

ワードやステークの兄弟や姉妹を我が家に招待する度に、その人がすでにほかの活動に参加することになっているのを知って安心しました。しかし、もうすぐクリスマスになるというのに、まだ、わたしたちがクリスマスと一緒に過ごす相手は見つかっていませんでした。

だれも探せなかったとあきらめて夕食の支度をしていると、玄関のベルが鳴りました。ドアを開けると、うれしいことにしばらく会っていなかった友人が立っていました。アベラーは最近、夫婦の考え方の相違から別居し、落胆を味わっていました。彼は寂しく孤独で、わたしたちと一緒に過ごしたいという思いを強く感じたのです。

心からアベラーを歓迎すると、彼は、試練のさなかで必要な慰めを得られる場所が見つかったと言いました。わたしたちは、助けの必要な人に仕え、助けるために準備をしてきたと、彼に告げました。主がその人を御存じで、愛しておられることを、その人が知ることができるようにするためだと、伝えたのです。

わたしたちが見つけることのできなかった人、わたしたちの友人アベラーを、主がわたしたちのもとに送ってくださったと実感できたのは、わたしたち家族全員にとって素晴らしいことでした。わたしたちは、天の御父の息子たちと娘たちの間のつながりが、最も重要であることを実感しました。そういうわけで、それ以降のクリスマスには、わたしたちと3人の子供たちは、一致と愛と友愛のきずなを強めることがこの季節の目的だということをいつも思い出しています。■

アナ・マルシア・アグラ・デ・オリベイラ  
(ブラジル、ベルナンブコ)

**だ**れも  
探せなかったと  
あきらめて  
夕食の支度を  
していると、  
玄関のベルが  
鳴りました。





七十人  
タッド・R・  
カリストア長老

# 恐れるな

マリヤとヨセフから、  
わたしたちは恐れる必要がないことを学びます。  
どの問題にも解決策があるからです。

**マ**リヤとヨセフは若いころに、どの問題に対しても、神は解決策を持っておられるということを学びました。天使はマリヤにこう言いました。「恐れるな、……神には、なんでもできないことはありません。」(ルカ1:30, 37)

ヤングアダルトは、時折、エベレスト山のように思える問題に直面することがあります。とにかく高く、険しすぎて登れないと思ひ込んでしまいます。解決策が見えないので、落胆してしまいます。自分の将来について消極的になったり、悲観的になったりすることさえあるかもしれません。しかし皆さんはマリヤとヨセフのように、解決不可能と思える問題が人生で起こっても、神は必ず解決策を持っておられるということを学びます。

神の御子を産むという神聖な召しについて知ったとき、マリヤの頭の中には、様々な問題や心配事が洪水のように押し寄せて来たに違いありません。何と言っても、マリヤはヨセフと婚約していました。ヨセフはどう思うだろうとマリヤは考えたはずで

そのとき天の御使いは次のように助言しました。「恐れるな。」(ルカ1:30)ヨセフはマリヤが妊娠していると知ったとき、婚約の破棄以外に納得のいく解決策を見いだせませんでした。しかし、天使は再び次のように助言しました。「心配しないで。」(マタイ1:20)天からの同じような指示は、すでにザカリヤにも与えられていました(ルカ1:13参照)。また後になって、羊飼いたちにも与えられました。「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。」(ルカ2:10)

今日の世は多くのことを恐れています。例えば、結婚、子供をもうけること、決断すること、正義を擁護すること、周囲の圧力に立ち向かうことなどに対する恐れがあります。経済情勢や自然災害への恐れもあります。しかし、主から今日のわたしたちへの助言は、マリヤとヨセフに与えられた助言と同じです。「元気を出しなさい。恐れてはならない。主なるわたしはあなたがたとともに[いる]……からである。」(教義と聖約68:6, 強調付加)

御使いがマリヤとヨセフに与えた「恐れるな」という助言は、二人特有の問題だけにあつらえた指示にとどまりませんでした。それはあらゆる人に対する普遍的なあいさつの言葉だったのです。なぜなら、マリヤとヨセフは救い主の務めにおいて他に類のない役割を果たすことになっており、救い主のその務めはあらゆる時代のあらゆる人のあらゆる恐れを取り除くことになっていたからです。

救い主の降誕と生涯と贖いのおかげで、解決できない問題は存在しないのです。もちろん一時的に悲しい経験や困難はありますが、それらが永久に続くわけでも、克服できないわけでもありません。神に解決できない問題を抱えている人を皆さんは想像することができるのでしょうか。神は必ず解決策を持っておられ、そのおかげで、わたしたちは永遠に進歩し続けることができるのです。これこそまさに贖いの理由であり本質です。だからこそ、モルモンはこう言ったのです。「キリストの贖罪……によって……望まなければならない。」(モロナイ7:41)

贖いにわたしたちの問題を解決する力があるかどうか、疑いを挟む余地はありません。この点を明らかにしてくれる聖文はたくさんあります。ほんとうの問題は次の事柄です。わたしたちはそれらの解決策に喜んで応じるだろうか。この世的な答えと神の答えのいずれを選ぶだろうか。悔い改めようとするだろうか、それとも正当化しようとするだろうか。弱点を克服するために神の恵みを求めるだろうか、それとも「自分だけの力で解決する」だろうか。悲しい経験をしているとき



マリヤに天使はこう言いました。「恐れるな、……神には、なんでもできないことはありません。」

に神の愛に感謝するだろうか、それとも人生の苦難を経験する度に神を拒絶するだろうか。

贖いこそ、人生の重大な問題を解決する手段です。贖いのゆえに、神は、御心<sup>みこころ</sup>に従うことを条件として、自らの行く末を決める力をわたしたちに与えてくださいました。そのような従順のすばらしい模範がマリヤです。マリヤは天使にこう言っています。「お言葉どおりこの身に成りますように。」(ルカ1:38) そこに正当化、先送り、つぶやきはなく、へりくだって神の御心に従う態度しかありませんでした。ヨセフも同じように従順の模範となりました。理屈で考えるなら、マリヤが不誠実だったと思わざるを得なかったかもしれませんが、ヨセフは「主の使が命じたとおりに、マリヤを妻に迎えた」のです(マタイ1:24)。

マリヤとヨセフは人生で最も力強い

教訓を学びました。贖いを信じ、神の御心を行うならば、問題の解決策が必ずあるので恐れる必要はないという教訓です。

この世の批判的な人々はまったくこの教訓を学んでいません。確かに、そうした人の多くは、聡明<sup>そうめい</sup>で観察力が鋭いかも知れません。わたしたちの直面している数多くの複雑な問題を見ますが、解決策が見えないために、あきらめてお手上げの状態になることが多いのです。これはすなわち、彼らに贖いが理解できないからです。自分たちの前に立ちはだかる問題は見えても、視界が遮られているのです。壁にじゃまされて地平線が見えないように、問題しか見えないのです。結果的に、疑い深く、皮肉ばかり言い、悲観しやすくなります。彼らの物の見方は表1に表されています。

一方、批判的になることなく、物事を霊的に分析する人も大勢います。彼らも聡明で観察力が鋭く、また、複雑で困難な人生の問題を見ます。しかし、物の見方がまったく違うのです。視界を遮る壁はありません。むしろ、遠くまで見通せる望遠レンズがあり、そのおかげで問題だけでなく、問題の向こうにあるものまでも見えるのです。言い換えれば、贖いが提供してくれる様々な解決策も見えるということです。彼らの物の見方は表2に示されています。

その結果、このような人々は、まったく、あるいは、ほんのわずかしか恐れられません。人生に肯定的で楽観的、また前向きです。すべての問題には霊的な治療法があるということをはっきりと知っているからです。ですから、救い主はこう宣言されました。

表1：批判的な人々



表2：霊的に分析する





死や弱さ、罪、この世の生活には付き物の  
苦しみからわたしたちをほんとうに救えるからこそ、  
主は救い主であられるのです。



「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ 16:33) したがって、キリストの教会には消極的な考え方の入る余地はないのです。消極的な考え方や皮肉はサタンからもたらされ、楽観的な考え方や元気な態度はキリストからもたらされます。

世界の問題はすべておもに4つに分類されるようです。救い主はそれぞれの問題の下に身を落とし、克服されました。だからこそ「勇気を出しなさい」と命じておられるのです。

- 第1に、**死**です。聖文はこう宣言しています。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」(1コリント 15:22)
- 第2に、**罪**です。天使はヨセフに、イエスは「おのれの民をそのもろもろの罪から救う」ことになると語っています(マタイ 1:21)。
- 第3に、**弱さ**です。救い主はモロナイに「わたしの前にへりくだるすべ

ての者に対して、[救い主の] 恵み [不可能を可能にする贖いの力] は十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう」と教えておられます(エテル 12:27)。

- 第4に、**罪との関連性は薄いながらも、この世の生活には付き物の苦しみ**(例えば、病気、拒絶、うつ、失業など)です。救い主は「心のいためる者をいやし」、「すべての悲しむ者を慰め」、「灰にかえて冠を与え」てくださいと、イザヤは預言しています(イザヤ 61:1-3。アルマ 7:9-13も参照)。

この世がわたしたちに負わせるすべての苦悩に対して、救い主は他に類のない癒しの力という治療法を持っておられます。マリヤが「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救主なる神をたたえます」と感嘆の声を上げたのに何の不思議もありません(ルカ 1:46-47)。死や弱さ、罪、この世の生活には付き物の苦しみからわたしたちをほんとうに救えるからこそ、主は救い主であられるのです。

天の御父はマリヤとヨセフが、たとえ不確かではあっても、この人生の道を恐れることなく、また救いの力を持つ御子がおられるという知識をもって歩み始めるようにと願っておられました。天の御父は、わたしたちがマリヤやヨセフと同様、「恐れるな、……神には、なんでもできないことはありません」という教訓を若いころに学ぼう望んでおられます(ルカ 1:30, 37)。■

# 時間が足りませんか？

ソン ホンオク  
孫 弘旭

2008年12月下旬のこと、わたしは韓国ソウル神殿の日の栄えの部屋に座って、来る新年のことを考えていました。2か月ぐらい前に同じ神殿で結婚したばかりで、何日も何週間も、仕事、教会の召し、そして新しい家族のことでスケジュールは詰まっていた。それまではインスティテュートのクラスにも欠かすことなく通っていましたが、もう出席するのはやめようと思いました。

新年の方向性を求めて祈ったときに、インスティテュートに続けて出席するべきだという明確な印象を受けました。それに加えて、神殿に参入する回数を増やすようにという促しも受けました。その日、神殿を出るときには、平安な気持ちと主が与えてくださった新しい指示に感謝する気持ちに満たされていました。授かった指示に従うならば、必ず祝福を受けると強く感じました。

1月からソウル神殿の奉仕者として奉仕し始めました。割り当てを果たすためには、週に2度、およそ1時間の道のりを神殿まで通わなければなりません。おまけに、妻も週に2度、1時間の道のりに行くことになりました。わたしと一緒に、1度は神殿奉仕者として奉仕するため、あと1度はインスティテュートのモルモン書クラスに出席するためでした。

インスティテュートの時間はないと  
思っていました。

しかし、  
時間を作るよう  
御霊に促されました。



これらの新しい責任が加わったことで、勤務を毎週数時間減らさねばならないことがすぐに明らかになりました。営業の仕事をしてきたわたしの収入は顧客の数で決まります。勤務時間を減らすことで、給与がかなり減るという事態も覚悟しなければなりません。しかし、受けた印象は忘れませんでした。また、全力を尽くして主に従えば、ほかのことはすべてうまくいくということを知っていました。

インスティテュートと神殿に通う頻度が高くなったことによって、数多くの祝福がわたしの生活に流れ込んで来ました。幾つかの目立った変化に気づきました。以前よりも、御霊を身近に、また頻繁に感じるようになり、回復された福音に対する証も強くなりました。妻とわたしは神殿で奉仕し、インスティテュートのクラスに出席することによって大きな恵みを受けました。また、思いも寄らないことでしたが、この世的にも祝福を受けました。勤務時間を減らしたにもかかわらず、どういうわけか以前より多くの顧客に恵まれたのです。収入は減るどころか、2倍近くになりました。

これらの素晴らしい祝福は主から与えられたことを知っています。わたしたちが「まず神の王国と神の義を求め」るときに、「これらのものはすべて添えて与えられる」のです(3ニーフай 13:33)。そのことを知って、主から慰めを受けたことに感謝しています。■

## 「聖文を読もうという意欲をなかなか持てません。どうすれば意欲を持つことができるでしょうか。」

### 聖

文を研究することは、初めは難しいかもしれません。学ぶべき概念がたくさんあり、登場人物や場所が自分と懸け離れたものを感じるかもしれません。しかし、辛抱強く続ければ、聖文研究は報いをもたらす経験となるでしょう。

預言者アルマが述べたことを試してみてください（アルマ 32：27－34 参照）。アルマは、もし生活の中に神の言葉のための「場所を設け[る]」なら、御言葉は心を広げ、理解力に光を注ぐと教えています。また、アルマが約束したように、神の言葉が良い気持ちを与え始めるので、読み続ける意欲を持てるようにもなります（アルマ 32：28 参照）。

意欲を持つもう一つの方法は、聖文研究によって得られるたくさんの祝福を見つけ出すことです。

- 規則正しい熱心な聖文研究は、生活に御霊を招き、疑問に答え、清い思いを抱くのを助け、奉仕する動機を与え、より効果的に祈るのを助け、イエス・キリストや回復に関する証をはぐくんでくれます。
- 聖文は信仰を持つ方法、聖霊を認識する方法、悔い改めの方法を教えてください。救い主が必要な理由、反対のものが必要な理由、この地球が創造された理由など、そのほか多くのことを教えてください。

これらの祝福を経験するうちに、無理に読もうとしなくても、読むのが楽しみになることでしょう。

### 聖文には答えがあります



ニーファイ第二書第 32 章 3 節を読めば、聖文を読み、研究しなければならない理由をすぐに理解できます。わたしは、聖文にあらゆる疑問の答えがあることを知っています。聖文が与えられたのは、完成に向かって進歩するのを助けるためです。完成を目指すことはこの世の生活に欠かせません。だれでも聖文を読むために毎日数分の時間を取ることができます。

セルギー・C, 21 歳（ロシア、ノボシビルスク）

### より強い証



若い女性会長が『成長するわたし』に取り組むよう提案するまで、わたしは聖文を読んでいませんでした。『成長するわたし』に、数週間毎日聖文を読むように書かれていました。これを始めてから、読むのをやめていません。わたしがお勧めできる最善のことは、『成長するわたし』や『神への務め』に取り組むことです。もっともっと聖文を読むように自分自身にチャレンジを課せば、自分の中で変化が起きるのが分かるでしょう。より強い証を得られると断言します。

パオラ・S, 16 歳（ホンジュラス、コルテス）

### 理解力を求めて祈る



学校に出す研究課題や宿題がたくさんあるときでも、それをわきに置いてまず聖文を読みます。神の言葉を理解するために聖霊を招けるように祈って始めます。

セミナーのテキストのおかげで、聖文を読む意欲が高まり、さらに強まり続けています。

エリーゼル・N, 16 歳（フィリピン、イロコスノルテ）

### 神の武具



どのような習慣を身に付けるにも、鍵となるのは望みです。毎日読むことを望みましょう。どれくらいの量を読んだか記録し、毎日同じ時間に読むようにしましょう。

そうすることで継続性を身に付けられます。聖文を読むことは神の武具を身に着けることと似ています。武具を着けずに戦いに出る人はいません。神の武具を着けずに罪の世に出て

行ってはなりません。聖文を読んで、自分を守りましょう。

アンドリュー・G, 18歳 (合衆国メーン州)

### すべての人に役立つ書物



聖文研究は聖文に書かれている内容について考えるのを助けてくれます。聖典には福音や

キリストの教え、戒めがあるだけでなく、特にモルモン書は、戦争の話が多く、英雄、義人、悪人がたくさん登場する大冒険書です。聖典はすべての人の役に立つ書物です。

イブ・W, 15歳 (合衆国ネバダ州)

### 単なる書物ではない

聖典を、単にセミナーのために読むべき書物、あるいは読むのが決まりだから読まなければいけない本だと思わないでください。神の言葉を読むのです。聖典には冒険、苦悩、戦争について書かれています。聖典は、イエス・キリストがわたしたちの救い主であられること、そしてわたしたちのために血を流して亡くなられたことを証しています。預言者たちはキリストの神性を預言しました。真実だと確信していることを否定しなかったために大勢の人が命を落としました。彼らの信仰は揺るぎませんでした。わたしたちも皆、彼らのように忠実になれるよう努力するべきです。

カレブ・L, 14歳 (合衆国ユタ州)

### 主はあなたに語りかけることを望んでおられます

天の御父はあなたが尋ねる一つ一つの疑問への答えをお持ちです。あなたがすべき唯一のことは、聖文を読んで生活に当てはめることです。天の御父があなたに言葉をかけ、あ

なたの祈りにこたえたいと望んでおられることが分かれば、あなたも毎日聖文を読んで御父を求めたいと思うようになるでしょう。主の言葉に従うとき、生活は向上し、避け所と平安を見いだすでしょう。あなたは主の声を聞いてうれしく感じるでしょう。

エルバース・R, 18歳 (メキシコ、イスタパルカ)

### 読む習慣を作る



習慣を作ることはとても助けになります。初めは少しずつにして、毎日1, 2章ずつ読むようにします。程なく聖文を

読む習慣ができるでしょう。わたしはたいいてい毎晩数章読んで、賛美歌を歌います。この日課によって高められ、翌日の出来事を楽観していられます。また、セミナーで学ぶ事柄をよく理解できます。聖文は祝福です。ぜひ活用してください。

テイラー・C, 15歳 (合衆国ワシントン州)

### 生活のための勧告

聖文には、わたしたちと似た困難に遭う人の体験がつづられています。聖文を読む前に祈り、生活に必要な勧

告が得られるという信仰を持ってください。聖文は天の御父が御自身の子供たちに語りかけられる一つの方法です。聖文から、試練に立ち向かう力を見いだすことができます。よく導きを受けるなら、善悪を正しく識別でき、サタンのわなを避けることができます。これを証します。

アンダーソン・F, 19歳 (ブラジル、サンパウロ)



### さらに楽しいものに

「聖文を読むことが強調されたことに感謝しています。聖文を読むことが義務ではなく楽しみとなり、皆さんが神の御言葉

を夢中になって読むようになることを望んでいます。聖文を読むにつれて、心が開かれ、霊性が高まることを約束します。最初は退屈かもしれませんが、神の御心を知り、御言葉を味わうにつれてすばらしい経験となるでしょう。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長  
(1910 - 2008年)

「内なる光」「聖徒の道」1995年7月号, 107

## 次回の質問

「悩みの多いこの時代にあって、将来に前向きな姿勢でいるにはどうすればよいでしょうか。」

あなたの意見を聞かせてください。2011年1月15日必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先——

Liahona, Questions & Answers 01/11

50 E. North Temple St., Rm. 2420

Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

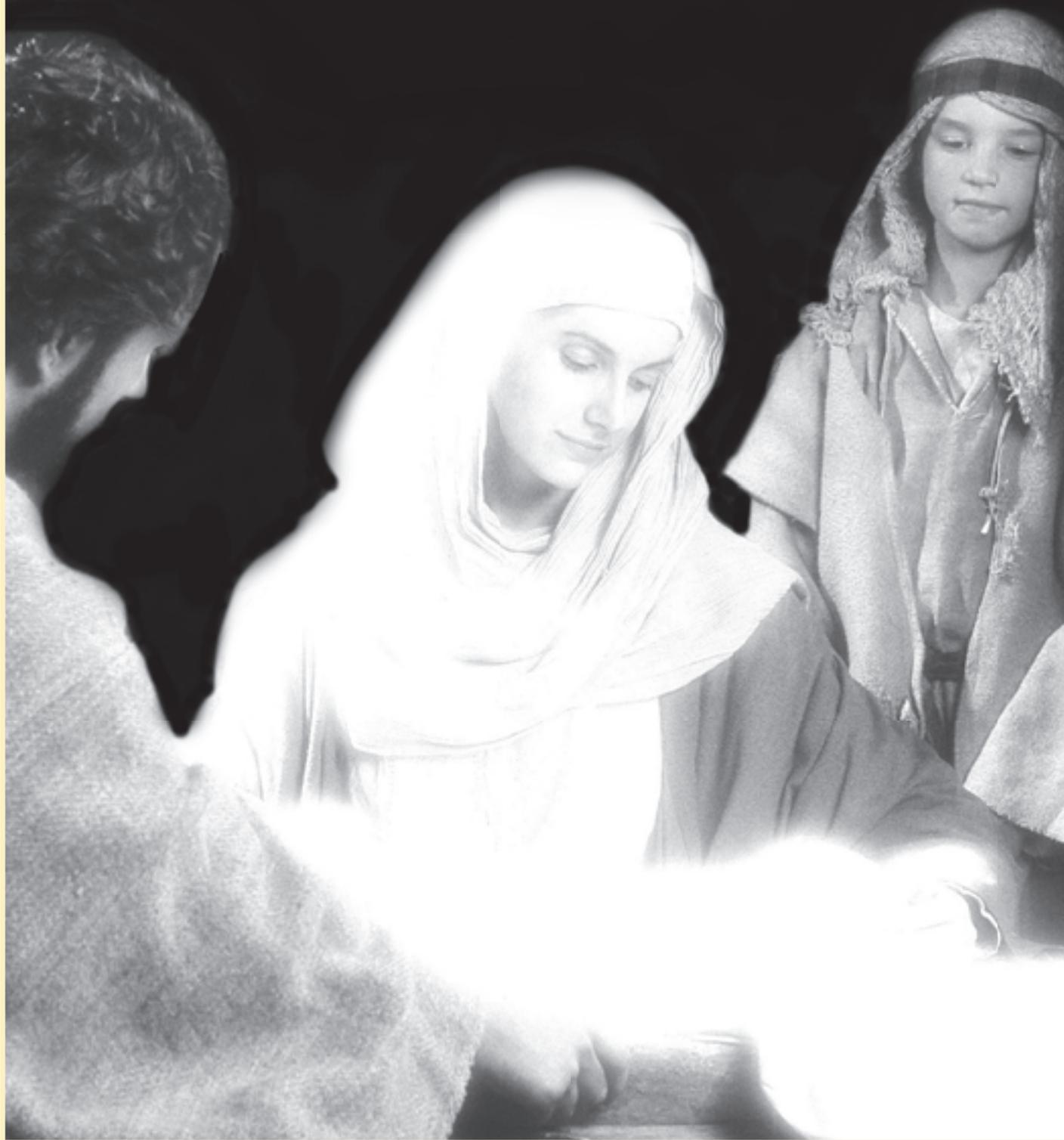
電子メールアドレス—— [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org)

掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

電子メールまたは手紙には、次の情報と同意文を必ず含んでください。(1)氏名、(2)生年月日、(3)ワードまたは支部、(4)ステークまたは地方部、(5)意見と写真の掲載に対する同意文(18歳未満の場合は保護者が書いた同意文)。同意文は電子メールでも受け付けます。

# 愛の清らかな光

クリスマスの時期に、そしていつも、キリストの光が道を照らしてくれます (ヨハネ 8 : 12 参照)。



# わたしたちのスペース

**あ** なたの話や写真、コメントを  
 liahona@ldschurch.org に  
 投稿してください。メールの件名欄に  
 「Our Space」と書き、投稿を掲載  
 するための親の同意文を添えてくだ  
 さい。掲載される際、  
 誌面の都合上、あるい  
 は明瞭にするために編集  
 されることがあります。

## 標準 —— 重荷？ それとも祝福？

**教** 会の標準を制約だと言う人  
 は、標準を人生の特権では  
 なく重荷と考えている教会員を恐  
 らく知っているのでしょうか。標準  
 があることで有害なものを常用し  
 ないで済むことを友達に教えたい  
 のなら、幸福な生活を送って、健康  
 な体、健全な思いと心によって得て  
 いる喜びを見せるようにしましょう。  
 わたしたちは言葉だけでなく模範  
 によっても教えます。あなたが選  
 択の自由を使って良いことをどのよ  
 うに選んでいるかを見せて、標準  
 が祝福であることを示しましょう。

パンアンス・O (右)、  
 19歳 (フランス)



## わたしの好きな聖句

モーセ第1章 39節

この聖句を思い出す度に、  
 この世での自分の務めを果たすなら  
 (すなわち主の戒めを守るなら)、  
 主が約束された賜物を受けられることを  
 思い起こします。

ローランド・D (上)、17歳  
 (フィリピン・パンガシナン)



## 友達を見つける

**ぼ** くはいつも祈りの力を信じてきました。アジア  
 に初めて引っ越したとき、学校の新学期が始まる  
 まで2か月待たなければいけませんでしたが、家族と一緒に過ごす  
 時間は楽しかったのですが、同じ信念を持つ良い友達が欲しいと思いま  
 した。次第に近所の人と知り合って、何人か同じ年の子もいましたが、同じ  
 標準を持つ子はいませんでした。

ようやく学校が始まったら、同じ年のたくさんの子と出会い、友達になりました。  
 あるとき、数人の友達と夕飯を食べに行きました。夕飯の後、一部の友達は帰りまし  
 ましたが、残っていた人たちはまだ何かしたかったので、彼らは酒を飲みに行くことにしま  
 した。ぼくも誘われましたが、断りました。すると、寂しさがいっそう募りました。  
 その夜帰宅した後、良い友達が見つかるように祈りました。

数週間後、また数人の友達と夕飯を食べに出かけましたが、ぼくは酒を飲  
 まないことをはっきりと伝えました。夕飯の後、一人を除いて全員が飲み  
 出かけました。残されたぼくたちは話し始め、同じ標準、すなわち個人  
 的に選んで守っている、同じ標準を持っていることを発見しました。

天の御父がいつも祈りにこたえてくださることを知って  
 います。

ジョーダン・H、17歳 (アメリカ合衆国)

# 新世界での クリスマス

ウェンディ・ケニー

アメリカ大陸では、救い主の降誕のしるし——  
くらやみ  
暗闇のない夜——が信者たちを救いました。





上——「預言をするレーマン人サムエル」アールド・フリーバート画  
下——「絵／オールド・レイン

**あ**る夜、空に突然新しい星が現れたとしたら、あなたは気づくでしょうか。たぶん気づかないでしょう。でも、少しも暗くならない夜、太陽が沈んだ後も真昼のように明るいままの夜には間違いなく気づくでしょう。特に、レーマン人サムエルが町の城壁に立ち、神の御子の降誕を示す大なるしるしと不思議について話したときに群衆の中にいたとしたら、見逃すはずがありません。もしサムエルが語るのを聞いていたとしたら、きっとしるしを待ち置けていたことでしょう。

**サムエル、ゼラヘムラへ伝道に行く**

レーマン人であったサムエルは、ゼラヘムラの地に行ってニーファイ人に悔い改めを呼びかけるように天使から命じられました。モルモン書に記録されているように、新世界の歴史の中で、このころには実際にレーマン人の方が、より義にかなった民となっていました。したがってレーマン人の預言者が必要だったのです。きっと主は、ニーファイ人が悪の道から離れて主を世の贖い主として受け入れるには少し時間がかかることを御存じだったのででしょう。そこで御自分の来臨に民を備えさせるために、その5年前にサムエルを遣わされました。

悔い改めを説く以外に、サムエルはゼラヘムラの民にイエスキリストの降誕のしるしについて教えるように天使から指示されました。そこでサムエルは、5年がたつと「神の御子の来臨の時のしるしとして、……見よ、天に大なる光があるために、神の御子が来られる前の夜は暗闇がなく、人にはまるで昼のように思われる」と宣言しました（ヒラマン 14：3）。また、このしるしは「〔主〕のお生まれになる前夜」に起こると言いました（ヒラマン 14：4）。暗闇のない夜の預言に加えて、サムエルは民に「あなたがたが一度も見たことのないような一つの新しい星」を待ち置けるように告げました（ヒラマン 14：5）。

## 信者たちがあざけられる

サムエルの預言から約5年がたつと、忠実な人々は敵にあざけられ、次のように言われました。「時は過ぎ去り、サムエルの言葉は成就していない。だから、あなたがたがこのことを喜び、信じたのは、むなしいことだった。」(3 ニーフアイ 1:6) 信仰心のない者たちは、しるしが特定の日までに現れなければ信者たちを殺す陰謀すら企てました(3 ニーフアイ 1:9 参照)。

5年後に当たる日が近づくと、忠実な人々は「述べられていることが何らかの理由で起こらないようなことがありはしないかと、非常に悩み」始めました(3 ニーフアイ 1:7)。それでも引き続き「まるで夜のない一日のような二昼一夜を確固として待ち掛け、自分たちの信仰がむなしいものでなかったことを知ろうと」しました(3 ニーフアイ 1:8)。

## 預言が成就する

信者たちを殺すと定めた日が近づきました。民の不安に心を痛めた預言者ニーフアイは、天

の御父に嘆願して「自分の民のために、すなわち先祖の言い伝えを信じていることで殺されようとしている人々のために、熱烈に神に叫び求め[ました]。そして彼は、終日熱烈に主に叫び求め」ました(3 ニーフアイ 1:11-12)。ニーフアイの嘆願は聞かれ、主はニーフアイに次のように語られました。「頭を上げて、元氣を出しなさい。見よ、時は近い。今夜、しるしが示され、明日、わたしは世に来る。そしてわたしは、聖なる預言者たちの口を通して語ってきたすべてのことを成就することを、世の人々に示す。」(3 ニーフアイ 1:13) その夜、サムエルが予告したとおり、「太陽が沈んでも少しも暗くな」りませんでした(3 ニーフアイ 1:15)。サムエルが預言したすべてのことが起こり、一つの新しい星さえも現れました。

## 不信仰の起こることがないように

聖書には、キリスト降誕時の暗闇のない夜に関する記録はなく、新しい星について簡単に述べられているだけです。その星を見た博士たちは、星を追って幼子キリストのもとに行き



## 世の光

「**主**はかつて御自分のことを指して『輝く明けの明星』(黙示 22:16)と言われましたが、その降誕のときには天に新しい星が現れました(マタイ 2:2; 3 ニーフアイ 1:21 参照)。ベツレヘムの空高く明るく輝くその星は、祝福された主の降誕のまさにその時、その場に輝きわたるよう、この預言された出来事が起こるはるか昔に、天の軌道上に置かれたものだったので。

『世の光』(ヨハネ 8:12)と呼ばれる主が降誕されたとき、その聖なる降誕のしるしとして、闇が払われました(3 ニーフアイ 1:15, 19 参照)。」

十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン長老  
『この聖地にて』「聖徒の道」1991年2月号, 13



ました(マタイ2:2, 9-10参照)。ユダヤの地域では、キリスト降誕のしるしを見たのは羊飼いや少数の人だけでした(ルカ2:8-18参照)。しかしアメリカ大陸では、「北の地でも南の地でも、西から東に至るまで全地の面にいる人々は皆」しるしを見て、「神の御子が間もなく御姿を現さるに違いないということ」を知りました(3ニーファイ1:17)。

なぜ新世界ではそれほど多くの人が救い主の降誕のしるしを見たのでしょうか。サムエルの次の言葉に、その理由が少し説明されています。「天使はわたしに、これらのしるしとこれらの不思議がこの地の全面に現れることを、多くの者が信じられるように、また人の子らの中に不信仰の起こることがないように、多くの者はこれらのことよりも大いなることを見るであろうと言った。」(ヒラマン14:28, 強調付加)

### ついに救い出される

暗闇のない夜の後、再び空に太陽が昇ったとき、民は「しるしが与えられていたので、その日に主がお生まれになったことを知りました(3ニーファイ1:19)。その喜び

を想像してみてください。信者たちは危機を脱しました。彼らの命は信仰心のない敵の手から救われたのです。そして霊的にも救われました。贖罪によって人類をその罪から救うために、神の御子が世に来られたからです。

ユダヤ人はイスラエルの子らがエジプトでの奴隷の状態から救い出されたことを記念して過越を祝いますが、わたしたちは一般にクリスマスをもそのような解放の記念としてとらえることはありません。しかし新世界の信者たちにとって、救い主がお生まれになった日は確かに解放の日だったのです。

今年のクリスマスを祝うとき、救い主降誕の地での出来事とともに、地球の反対側にあるアメリカ大陸で起こったことを思い起こしましょう。主の降誕は全人類に霊的な解放をもたらしましたが、新世界では確固とした信者の一団に、まったく文字どおりに死からの解放をもたらししました。そして主の降誕は、イエスを自分の主、救い主として受け入れるすべての人を解放し続けているのです。■

左——キリストの降誕を告げられる羊飼いのアーサー・A・ディクソン画、教会歴史博物館の厚紙より複製  
上——貝の神の小羊、ウォルター・レーン画、教会歴史博物館の厚紙より複製



クリスマスの日、  
昼食の直前に  
戸をたたく音が  
しました。  
そこには隣人の一人が、  
タオルで覆った  
とても大きな深皿を  
持って立っていました。

# 最高の プレゼント

あのクリスマス、わたしたちには食べ物がありませんでした。  
奇跡を待ち望むしかありませんでした。

エールソン・セールス

**12**歳のころ、わたしたち家族はブラジルの市街地から遠い農場で働いて暮らしていました。その年の12月、別の人が経営する農場で兄と一緒にナッツを収穫していると、突然雨が降りだしました。雨は何日も激しく降り続き、働くことができませんでした。

もうすぐクリスマスでしたが、わたしたちの家では食べ物が底を突きかけていました。クリスマスの食事ができないのではないかと心配した母は、兄とわたしに、働いた分の賃金を農場の経営者からもらって来るように言いました。大した額ではなくても、ほかの人たちがクリスマスのごちそうを準備しているときに、少しは家族に食べ物を買うことができるでしょう。

兄とわたしはぬかるんだ道を数キロ歩いて農場の経営者の家に向かいました。わたしたちが到着すると、経営者は驚きました。「こんな雨の日に一体どうしたんだい」と尋ねられ、事情を説明すると、経営者は言いました。「現金はないんだが、小切手でなら払ってあげられるよ。」わたしたちは小切手を受け取ると、急いでその場を後にしました。町に行って小切手を現金に換え、必要な食料品を買うためです。

町に着いたころには、クリスマス休暇でもうほとんどの店が閉まっていました。わたしたちは疲れ果て、小切手を現金に換えようという努力も無駄に終わりました。

食料品を持たずに家に帰ると、母と8人のきょうだいは

とてもがっかりしました。あるのは小切手だけで、今のわたしたちには役に立ちません。クリスマスイブがやって来ましたが、何のプレゼントもなく、食べ物もほとんどありませんでした。夕食にご飯を食べ、床に就きました。

クリスマスの朝に目を覚ますと、外で隣人たちが楽しく祝っているざわめきが聞こえました。でもわたしたちは家の中で、奇跡が起こって食卓に食べ物が並ぶのを願っていました。すると驚いたことに、昼食の直前に戸をたたく音がしました。そこには隣人の一人が、タオルで覆ったとても大きな深皿を持って立っていました。

「これをお持ちしました」とその女性は言いました。母は感謝して深皿を受け取りました。みんなで中をのぞいてみると、クリスマスの食べ物がいっぱい入っていました。わたしたちにとってごちそうであり、まさに奇跡でした。

あのクリスマスの食事はこれまでに受け取った最高のプレゼントでした。あのような特別な日に食べ物をもたらしてくれたからです。隣人はわたしたちの状況を知りませんでしたが、天のお父様は御存じであって、クリスマスに彼女を通して食べ物を与えてくださったのです。自分ではどうすることもできないとき、主はその無限の憐れみと慈しみをもって、わたしたちの生活に大きな奇跡をもたらしてくださいませ。そしてあのクリスマスにわたしたち家族が学んだように、わたしたちは人々の生活に奇跡をもたらすことによって主に仕えることができます。わたしたちの隣人が行ったように。■

# 甘いミルクのように

主のまことの福音を受け入れて応用するなら、砂糖がミルクを甘くするように、福音は生活を心地よいものにしてくれるでしょう。

ヨランダ・モラレス・ボサダス

**両**親はあまり宗教的な知識はありませんでしたが原則を教えてくれ、わたしはその教えに従うまじめで分別をわきまえた子供として育ちました。ところが2005年にわたしが15歳のとき父が亡くなり、それからわたしは別人になってしまいました。たぶん、父に別れを告げなかったことに対する心の痛みの表れだったのだと思います。父が病院に行く前にキスをしなかったことは、ずっと後悔することでしょう。

父の死後、わたしは健全な価値観を持たない仲間と付き合うようになりました。別にかまわないと思ったことや、皆がしていることをしていました。でも今は、主に喜ばれることではなかったと分かります。この世の楽しさの基準に照らして言えば、楽しく過ごしていました。しかし、実際には幸せではありませんでした。満たされず、何か欠けていましたが、それが何であるかは分かりませんでした。学校の成績も下がり始めました。いちばんの問題は、人生でどのようにして幸福を見いだせばよいのかまったく分からないことでした。当時は、家族や、だれよりも愛する母との大切な時間を自分がどれほど逃しているかに気づきませんでした。

夜になるとよく神に祈ったものでした。祈り方を教わったことはありませんで



**ほんとうの幸福はイエス・キリストの福音からもたらされます。**

したが、神が聞いてくださっているように感じました。幸せになれるように助けを求め、父が安らかに過ごしているかを尋ねました。父がどこかで苦しんでいるのではないかと、とても心配だったのです。わたしは幾晩も嘆願し続けました。

ついに答えがもたらされました。わたしは夢の中で答えを受けると思っていました。答えは二人の長老という形でやって来ました。2006年12月、長老たちが我が家を訪れました。わたしは彼らが祈りの答えであるとは理解できず、たった1度の話も聞きたいとは思いませんでした。母は宣教師の話聞き、教会に行く決意をしました。それ以来ずっと行き続けています。母はバプテスマを受け、数週間

後に、おいたちと姉がバプテスマを受けました。わたしは、母がバプテスマを受けてから大きく変わったことに気づきました。以前よりもずっと若く、幸せそうに見えました。母の幸福と平安は家中にあふれるばかりに広がり、訪れた人は足を踏み入れた瞬間に何かが違うのを感じるほどでした。

わたしは何が起こったのかを悟り、教会に行く決意をしました。それは不思議な経験でした。あんなに優しく接してもらったことは一度もなかったからです。姉妹たちは親切で、わたしのことを大切にしてくれたので、わたしは教会でも居心地よく感じました。教会が真実であると少しずつ確信するようになり、長老たちからレッスンを聞くことにしました。

わたしは二人のすばらしい長老によって、2007年2月3日にメキシコ・ベラクルスステーク、ウリベワードでバプテスマを受けました。二人のことはずっと覚えているでしょうし、彼らはわたしたちの天使だと思っています。わたしはバプテスマの日のことを決して忘れません。わたしはすべての罪から清められました。イエス・キリストの贖罪しよくざいのおかげで、わたしの過ちは消し去られたのです。もう気分が落ち込むこともなく、それまで感じていたうつろな気持ちもありませんで



した。その代わりに、心に途方もなく大きな喜びがありました。

まことの福音は、家族とわたしにとっても大きな幸福をもたらしてくれています。わたしは永遠の友達を見つけました。この世との戦いは続きますが、今では日々喜びと平安を与えてくれるまことの福音と御霊<sup>みたま</sup>があります。そして今、長い間主に尋ねていた質問の答えも知っています。神殿でわたしたちが父のために行った儀式をもし父が受け入れていれば、父は幸せで平安であることを知っています。わたしは父が福音を受け入れ、わたしたちを待っていると信じています。

時々振り返ると、どれほど祝福を受けてきたかがよく分かります。この世とその楽しみや気晴らしが与えるものよりも大きな幸福が存在することが分かります。ほんとうの幸福はイエス・キリストの福音からもたらされます。福音が教えていることは、すべてがわたしたちのためなのです。

以前ある電子メールを受け取りました。そのメールの中で、ある母親が幼い息子に説明していました。神はミルクに入れる砂糖のようだと。砂糖は見えなくても、すべてのものを甘くします。同じように、主のまことの福音は見ることはできませんが、受け入れて応用するなら、砂糖がミルクを甘くするように、あなたの生活を心地よいものにしてくれるでしょう。■

「エマオのキリスト」の一部、カール・ヘンリック・ブロック画。  
デンマーク、ヒレレスのフレズレクスボエー城内にある国立歴史美術館の許可を得て掲載。ミルクの写真/ロバート・ゲーシー

# オープンハウス

「キリストのまことの信者であった人々はみな、将来来られるキリストを信じていたので、……キリストの名、すなわちクリスチャンという名を喜んで受けた。」(アルマ 46 : 15)

アリソンは、ビショップの発表を熱心に聞きました。今年のクリスマスはワードでオープンハウスをするということです。「特別な夕べにしたいと思います」とビショップは言いました。「友達や近所の人を招待するのにとっても良い機会になるでしょう。」

アリソンはクリスマスの休日が大好きでした。家族や友達のためにプレゼントを買いに行ったり、クリスマスキャロルを歌ったりするのが好きでした。そして、イエス様の降誕のお話を読んだり、小さな赤ちゃんだったころのイエス様について考えたりするのが大好きでした。

ビショップの次の言葉がアリソンの注意を引きました。「オープンハウスをするので、今年は恒例のワードのクリスマスパーティーはありません。」

アリソンはしかめつらをしました。「パーティーがないですって？」母親にささやきました。ワードのクリスマスパーティーは、この季節のイベントの中でも、特に大好きなものの一つでした。

お母さんは指をアリソンのくちびるに当てました。

「友達や近所の人の中にはわたしたちがクリスチャンだということを理解していない人もいます。」ビショップは続けて言いました。「そのような人たちに、わたしたちがイエス・キリストを信じていることを知ってほ

しいのです。」

アリソンはそのことについて考えました。いちばんの友達のエリカが、モルモンはクリスチャンじゃないと言ったときのことを思い出しました。そのときは、アリソンはエリカが言ったことの意味が分からなかったのですが、そのことを両親に聞いたのです。

「『モルモン』や『末日聖徒』という名前に注目する人がたくさんいるの」と、お母さんが説明してくれました。「その人たちは、わたしたちの教会がイエス・キリストの名を取って名付けられていることを忘れてるの。」

次の日、学校で、アリソンはエリカに信仰箇条第1条を使って教えしました。「わたしたちは、永遠の父なる神と、そのおん子イエス・キリストと、聖霊とを信じているのよ。」

でも、エリカはかたをすくめて、「それならどうして、みんな、あなたたちのことをモルモンじゃなくてクリスチャンと呼ぶの？」と聞いてきました。

アリソンは、ビショップの言葉に注意を向け直しました。

「オープンハウスはイエス・キリストに焦点を当てたものとします」とビショップは言いました。「わたしたちは家族のみなさんに、キリストの降誕場面の人形セットを持って来るようお願いしています。そして、人物による降誕場面の再現も行う予定です。」

オープンハウスの日が近づいて来る

と、アリソンはわくわくし始めました。お母さんとお父さんは、近所のお年寄りをおオープンハウスに招きました。アリソンはエリカを招きました。

オープンハウスの夜、アリソンはお母さんが2組の降誕場面のセットを新聞で包むのを手伝いました。それから、お母さんとお父さんは、アリソンを車に乗せてエリカをむかえに行きました。

教会に着いたアリソンとエリカは、日本製、オーストリア製、フィリピン製、そのほか多くの国々で作られた降誕場面の人形セットを見ました。

それから二人は外に出て、若い男性たちと若い女性たちが降誕場面を演じている所へ行きました。本物の牛と、羊と、めすやぎさえもいました。「らくだ以外はみんないるわ」とアリソンは言いました。

ビショップは全員に礼拝堂に集ま



「末日聖徒」

イエス・キリスト教会の  
会員であるあなたは、  
確かに  
クリスチャンです。」

ゲリー・J・  
コールマン長老

「お母さん、わたしたちは  
クリスチャンなの？」

「リアホナ」

2007年5月号, 94

るように言いました。アリソンとエリカは初等協会の子供たちと一緒にすわりました。子供たちが「クリスマスを思いえがいてごらん」<sup>1</sup>と「クリスマスの歌」<sup>2</sup>を歌い、ワード聖歌隊が「メサイア」から数曲を歌いました。

「ほんとうにすばらしかったわ。」帰りの車の中でエリカが言いました。「わたしのお父さんとお母さんも来られたらよかったのに。」

「たぶん来年はね」と、アリソンはほほえんで言いました。アリソンはオープンハウスについて考え、クリスマスパーティーがなくてもちっともさびしくなかったことに気づきました。■

注

- 1.「クリスマスを思いえがいてごらん」『子供の歌集』〔英文〕50
- 2.「クリスマスの歌」『子供の歌集』32-33



絵クレック・ニコーポールド

# イエスさまへの クリスマスプレゼント



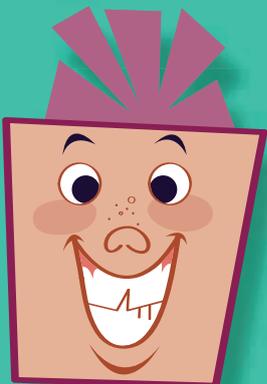
あいさつをして、なかまに 入れる



来るように しょうたいする



お手つたいをする



えがおで はげます



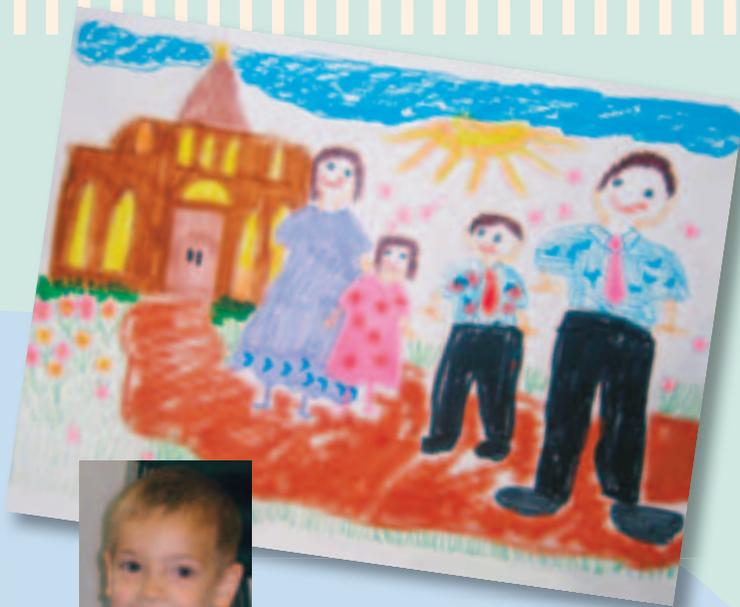
はかせたちは、イエスさまの ために こうかな おくりものも  
もって 来ました。はかせたちは、<sup>おうごん</sup>黄金、にゆうこう(こうかな  
こうりょう)、もつやく(ぬり ぐすり)を、イエスさまに  
おくりました。今<sup>こんげつ</sup>月、あなたは、イエスさまの  
たんじょうを おいおいしながら、イエスさまに  
どのような プレゼントを しますか。

あかしを する





アマダ・P, 9才 (ブラジル)



マーク・K, 4才 (ロシア)

## ぼくの 家族



ぼくのかぞくは、お母さんと、お父さんと、ぼくと、弟と、妹です。ぼくは、かぞくのみんなが 大好きです。ぼくの好きなことは、お父さんが、ぼくたちを楽しいところへ つれて行ってくれることです。毎朝、お父さんは、ぼくのために ホットケーキを 作って、それから ぼくを 学校へ つれて 行ってくれます。ぼくも、お母さんのために たまごを やきます。ぼくは りょうりを 教えてくれたお父さんに かんしゃしています。ぼくは かぞくが えいえんに いられるように のぞんでいます。その もくひょうを たっせいできるように、ぼくは せいぶんを ペンキょうして、毎日 おいのりをして、いましめを まもりたいです。

ユエン・ウェイ, 7才 (台湾)



## お母さんの救命ポート

わたしは、4人きょうだいのいちばん上です。わたしは、お母さんを手伝って、4才、2才、11か月の弟や妹たちの面倒を見るのが好きです。わたしは、弟や妹に、初等協会の歌を歌ってあげます。みんながいちばん好きなのは、「神の子です」です。

お母さんは、わたしに「あなたはわたしの救命ポートよ」と言います。お母さんがそう言ってくると、わたしはとてうれしくなります。なぜなら、お母さん

はわたしのきょうだいと、わたしのために、あらゆることをしてくれるからです。わたしもお母さんの助けになっていることが分ると、みたまをもっと近く感じます。

わたしたちの家の家庭の夕べはすばらしいです。家庭の夕べのおかげで、天のお父様を身近に感じることが出来ます。

ビクトリア・M, 10才 (スペイン)

# わたしは あがないぬしが生きておられる ことを知っています

サンドラ・ターナー、  
クリスティーナ・フランコ

**せ** いぶんを 読む人は、リーハイが いのちの 木の じげんの中で 見た 人たちに、少しずつ にてきます(1ニーファイ8しょうを見ましょう)。リーハイは てつの ほうを しっかりとにぎって はなさなかった 人たちを見ました。その 人たちには イエス・キリストについての あかしがありました。そして、てつの ほうは、この 人たちが しゅの もとへ 来ることが できるように たすけました。この てつの ほうは、かみの ことば、つまり、せいぶんや、よげんしゃの ことばです。てつの ほうを にぎっている 人たちは、イエス・キリストが 生きておられることを 学びました。イエスは、わたしたちの すくいぬし、あがないぬしです。イエスは、よげんしゃたちが 言ったとおり、ちきゅうに 来られました。そして、ふたたび、この 地上にもどって 来られます。今年、学んだことを つづけて 行なうならば、あなたは しゆくふくされて、イエス・キリストが 生きておられることが 分かるでしょう。あなたは 自分じんの あかしをもつ ようになるでしょう。

2010年12月 せいぶん日記

教義と聖約76:22を 読みましょう。

イエス・キリストが 生きておられることが 分かるように、天のお父さまに、おいのりしましょう。

教義と聖約76:22を おぼえましょう。



下の かつどうの 中から 一つを えらぶか、自分で 考えた かつどうを しましょう。

- ほかの人が 教義と聖約76:22をおぼえるのを 手つだいましょう。
- お父さんか、お母さんか、しょとうきょうかいの 先生に おねがいして、イエスさまについて 教えている、すきな せいくを 教えてもらいましょう。
- 63ページの かざりを 切りとって、その上に 書いてある せいくを しらべましょう。この かざりを クリスマスツリーか 家の どこかにかざりましょう。この かざりを見るたびに、すくいぬしのことを 思い出しましょう。
- イエス・キリストについての 新しい 歌をおぼえましょう。クリスマスの 歌か、さんび歌から えらぶとよいでしょう。

自分で えらんだ かつどうを することによって、この せいくをもっとよく りかいてきましたか。

自分が した かつどうについて、日記に 文か 絵をかきましょう。■

マタイ 19:14



イザヤ 9:6



ヨブ 19:25



きょうぎ せいやく 76:22  
教義と聖約 76:22



# かいばおけの わら

ジェーコブ・F・フランドセン

じつわを もとに 書かれました。

「ぜんを 行い、かみを あいし、  
かみに つかえるように さそい、  
うながすものは すべて、  
かみの れいかんを うけているのである。」  
(モロナイ7:13)

**マ**イケルは わらで できた  
小さな やわらかい ベッド  
を じっと 見つめました。

「クリスマスイブに、生まれたばかり  
の イエスさまが、やわらかくて あ  
たたかい ベッドに ねむれて よ  
かった」と、マイケルは 思いました。

前の 週、マイケルは、この 小  
さな かいばおけに 小さな わらを  
1本ずつ そっと 入れて いった  
のです。マイケルは 今年の クリ  
スマスは さいごの クリスマスだ  
と 思いました。なぜなら、マイケ  
ルは また 1年 せいちょうして、  
クリスマスが 何のために あるの  
かについて じゅうぶんに 分かる  
ように なったからです。

1週間前、お母さんは かていの  
ゆうべで クリスマスの ほんとうの  
いみについて 教えてくれました。  
お母さんは 言いました。「イエス・

キリストは、天のお父さまが この  
よに あたえてくださった いちばん  
すばらしい おくりものなのよ。」そ  
れから、お母さんは、子どもたち  
一人一人に、小さな、からの かい  
ばおけと、生まれたばかりの イエ  
スさまの 小さな 人形を プレゼ  
ントしました。

「来週は、わたしたち 一人一人が  
天のお父さまに プレゼントの  
おかえしをする チャンスがあるの  
よ」と、お母さんが言いました。

「どうやって おかえしするの」と、  
マイケルが 聞きました。

「わたしたちから 天のお父  
さまへの おくりものは、ほかの人に  
ほうしすることよ」と、お母さんは言  
いました。「よいことをしたり、人を  
たすけたりしたら、その たびに、  
自分の かいばおけに 小さな わ  
らを 入れていくの。人に やさし



くすれば するほど、クリスマスイブ  
には かいばおけが わらで いっ  
ぱいになって やわらかくなるのよ。」

「ほくは かいばおけに だれよりも  
たくさん わらを しきたい！」  
マイケルは、そう思いました。

つぎの 日、マイケルは わらを ふ  
やすために がんばり 始めました。

「お母さん、ゆかを はこうか。」  
マイケルは お母さんが だいどこ



「よろこびは、無私のせい  
よしんとほうしから  
生みだされ[ます。]」  
スペンサー・W・キンボール大管長  
(1895 - 1985年)  
『豊かで満ち足りた人生』  
『聖徒の道』1979年6月号, 40

ろの そうじを しているのを見て、  
そう言いました。

「くまさんのぬいぐるみをさがすのを手つだってあげるよ。」マイケルは、弟がおもちゃをなくしていないのを見て、そう言いました。

「ほくも雪かきをしたい。」マイケルは、お父さんが外に出て、車こから車道までの道の雪かきをしているのを見て、そう言いました。

3日もすると、マイケルの小さなかいばおけは とても かわっ

ていました。麦わらが いっぱいつまっています! でも、マイケルは自分じしんも かわったことに気づきました。マイケルは人に親切にすることが楽しくなってきました。なぜなら、天のお父さまが、マイケルに そうしてほしいと 思っ

ていらっしゃることが 分かったからです。ときどき、だれかのお手伝いをしたときに、マイケルは わらを かいばおけに 入れるのを わすれる ほどでした。

マイケルは、親切な 行いをすると、

心の中で よい 気もちがすることが はっきり分かりました。クリスマスツリーになり、マイケルはクリスマスツリーの やわらかい 光の そばに立ち、お母さんから もらった 小さな イエスさまの 人形を わらが あふれそうな かいばおけに やさしく ねかせました。

マイケルは、天のお父さまとイエスさまに あいを しめすために、できるかぎりの ことを したと かくしんしました。それは、これまでで さいこうの クリスマスでした。■





星——ベツレヘムから遠くはなれた西方の地域に住んでた博士たちは、一つの新しい星を見ました。かれらは、それが救い主がお生まれになったしるしであることを知りました。そこで、かれらははるばる旅をして、後にユダヤ人の王となる幼子イエスのもとをおとすれたのです。その際、かれらは黄金、乳香、もつやくなどの高価なおくり物を持って行きました。



かいば  
飼葉おけ——  
どうぶつよう  
動物用のえさを  
い  
入れる  
きいし  
木や石で作った  
はこ  
箱もしくははち

なった。このかたこそ主なるキリストである。あなたがたは、幼なごぬの布にくるまってかいばおけのなかにねかしてあるのを見るであろう。それが、あなたがたにあたえられるしるしである。」

するとたちまちつかみ使いたちがあらわひつじかむられて、羊飼いたちに向かっこう言いました。「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の

うえ  
上では、み心にかなうひとびとへい  
わ  
和があるように。」

つかみ  
み使いたちが去った後、おどろ  
ひつじか  
いた羊飼いたちは急いでベツレヘムに行って、飼葉おけの中におきなごひつじか  
幼子イエスを見つけました。羊のいるおかにもどった羊飼いたちは、神をほめたたえ、自分たちが見たことすべてを人々に話して回りました。■

マタイ1:20-25;  
2:1-11;  
ルカ2:1-20  
から。

# とくべつな おきやくさま

「ジョセフ・スミスは、ただ イエスは べつとして、この よに 生を うけた たの いかなる 人よりも、この よの 人びとの すくいのために 多くの ことを なしとげた。」(教義と聖約 135:3)

## ロレイン・リチャードソン

じつわを もとに 書かれました。

「こ んばんの かねの 夕べに とくべつな 人を おまねきすることに なっているんだよ」と、朝ご はんの ときに お父さんが 言いました。

「だれが くるの。」おどろいた ダニエルは、お父さんを 見上げながら たずねました。

「あなたが よく 知っている 人よ。お会いしたら ぜったい 大よろこび すると 思うわ」と、お母さんが 言いました。

その日 ダニエルは 一日中、かねの 夕べに だれが 来るんだろうと 考えていました。2、3日すると クリスマスです。その とくべつな おきやくさまは 何か クリスマスに かんけいあるのかなと 思いました。

その 夜、かぞくみんなが あつまって いよいよ かねの 夕べが はじまりました。「じつは、今夜の とくべつな おきやくさま というのは ジョセフ・スミスなんだよ。ジョセフ・スミスは 12月23日が たんじょう日 だって 知っていたかい。今日は ジョセフ・スミスの さいしょの じげんを かぞくでえんじてみようと思ふんだ」と、お父さんが 言いました。

みんなは それぞれの やくを えんじるのに ひつような 小どうぐや いしよを あつめました。ダニエルは お父さんと、ほかの 人たちは お母さんと いっしょに れんしゅうを しました。そして 間もなく みんなの じゅんぴが できました。弟の マシューは、ジョセフ・スミスの やくを えんじることに なって はりきっていました。ダニエルと エリザベスは ジョセフのかぞくを えんじます。お父さんと

お母さんは、ほかの 教会の だいひょうの やくです。「わたしたちの 教会に 入って、すくいを えましよう。」

「いや、わたしたちと いっしょに 来て ください。正しいのは わたしたちです。「聖書には こう書かれています。「でも それは そういふいみでは ありませんよ!」

「ところで ジョセフは どう かんじたと 思う。みんなが ちがうことを 言っているのだから だれが 正しいか まよったと 思わないかい」と、お父さんが たずねました。

ダニエルも マシューも エリザベスも みな、ジョセフは とても こまったに ちがいないと 思いました。

つぎに お父さんは ろうそくに 明かりを ともしました。お父さんが ろうそくの 明かりで「あなたがたのうち、ちえに ふそくしている ものが あれば、……かみに、ねがいもとめるがよい」というヤコブの手紙 だい1しよ 5せつを 読んでいます。

とき、ダニエルは まるで 自分が ジョセフ・スミスと いっしょに その場にいるような気がしました。それから、お父さんは さいしょの じげんの 話を 読みはじめました。

マシューは、ジョセフ・スミスが したように、ひざまずいて おいのりの しせいを とりました。そのとき とつぜん かいちゅうでんとうの 光が 明るく マシューを てらしました。そこで ダニエルは、さっき お父さんに たすけて もらって あんきた せいくを、おごそかに いいました。「これは わたしの あいする 子である。かれに 聞きなさい。」(ジョセフ・スミス—歴史 1:17)

お父さんは、天の お父さまと イエス・キリストが ジョセフ・スミスに あらわれて、地上の どの 教会にも 入っては ならないと おめいじになったことを せつめいしてくれました。





「**わ**たしたちは よげんしゃ ジョセフ・スミスの あかしを 通して イエス・キリストを しんじるようになるのです。」

大管長会第二顧問  
 ディーター・F・ワークトルフ 管長  
 「最初の示現が結んだ実」  
 『リアホナ』2009年2月号, 5

「しゅは、ジョセフ・スミスをおえらびになって、地上にイエス・キリストのまことの教会をかいふくされたんだよ。そして、ジョセフはちゅうじつにそのつとめをはたしたんだ」と、お父さんが言いました。それからいく日かして、きんじよにすむダニエルの友だちのアンディーがあそびにやってきました。ダニエルはまだそのときも、かていの夕べでならった

ジョセフ・スミスのことを <sup>かんが</sup> 考えていました。ダニエルはアンディーにむかってこう言いました。「ほく、ずっと前に生きていたジョセフ・スミスっていうよげんしゃを知っているんだ。アンディーはその人のこと知ってる?」■

# さいしよの クリスマス プレゼント

きょうかいきかんし  
チャド・E・ファレス

「かみは その ひとりごを たまわったほどに、この よを あいしてくださった。」  
(ヨハネ 3:16)

じつわを もとに かかれました。



3. トルーマンは わからなくなって しま  
いました。



2. なんにちかして いまに いったとき、  
トルーマンは ツリーの したに  
ちいさな はこが おかれているのを  
みつけました。その はこは、あかい  
つつみがみで つつんで、みどりの  
リボンが むすんでありました。



4. ひが たつにつれて、ツリーの したには プレゼントが どんどん ふえて きました。でも トルーマンは、あかい つつみがみに みどりの リボンを むすんだ さいしょの プレゼントが きに なって しかたが ありません。だれからの プレゼントなのでしょう。



### 親の皆さんへ

一つの箱を用意して、その中にあなたと家族がイエス・キリストの降誕を思い起こすのに役立つと思われるものをいくつか入れてください。詩、絵、紙の星、おもちゃの羊、天使の人形、またはそのほか子供たちが主の降誕を思い起こすのに役立つと思われるものを入れてください。それをきれいに包装して、クリスマスの日に開けましょう。

5. クリスマスの あさ、トルーマンは おおいそぎで りょうしんと おとうとたちを おこしに きました。



おきて！クリスマスだよ！

7. トルーマンが ふたを あけると、ちいさな ものが いくつか はいていました。なかみを ひとつ ひとつ とりだして みると、イエス・キリストの えと、イエスさまがおうまれになったことを うたった しと、ほしが できました。トルーマンは みんなに そのえを みせてあげました。そして おとうさんが しを よんでくれました。



ツリーの したに このプレゼントを おいたのは わたしだよ。クリスマスをおいにするほんとうの いみを みんなが おもいだせるようにね。

6. ツリーの ところに いった トルーマンは、ツリーの したの プレゼントを あけるのが まちどおしくて たまりません。



トルーマン、あかい つつみがみに みどりの リボンを むすんだ ちいさい はこを あけてごらん。

ついに なかを みる こと が できる のです。トルーマンは どきどき しました。

8. トルーマンは、イエスさまのことを おもいだして しあわせな きもちに なりました。



あのプレゼントを ツリーの したに おいたのは おとうさんだったんだね。でも このおくりものを くださったのは ほんとうは だれか ぼく いま わかったよ。

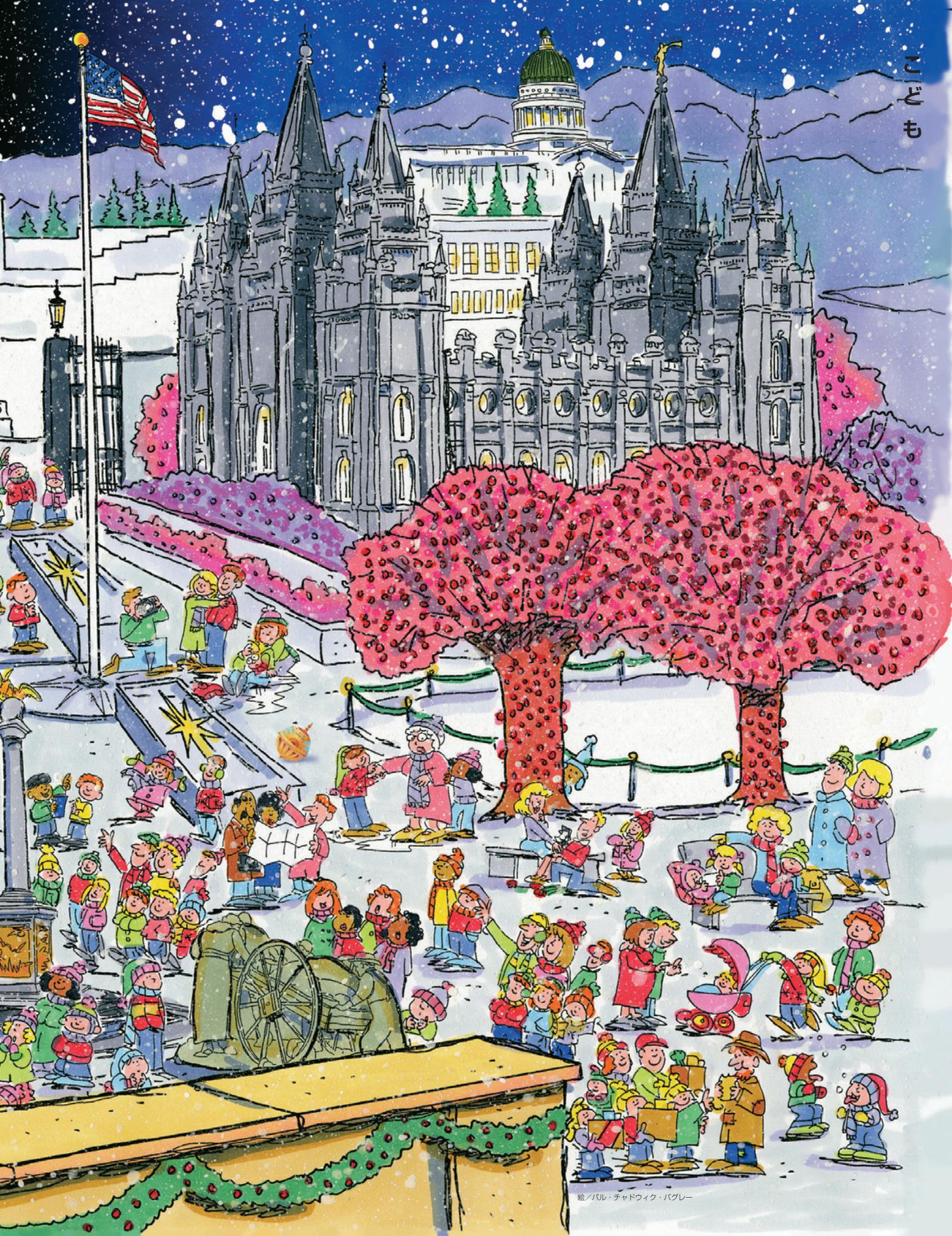
だれだい？

てんの おとうさまでしょ。

# クリスマスの ほうし

ソルトレーク・シティにある テンプルスクウェアは、とくに クリスマスの じきに おとずれるには とても すばらしい ところです。 テンプルスクウェアにいる ひとたちは おたがいに ほうしをして クリスマスの せいしんを わちあっています。 いちまいの えの なかに しんせつな おこないをしている ようすが いろいろ えがかれています。 それぞれ ひとびとが ほうしをしている えを まるで かこんでみましょう。 さあ、どんな しんせつな おこないが えがかれているでしょうか。





# 教会のニュース

## 教会員、オンラインで福音を分かち合う

教会機関誌  
ブレンナ・オラブソン

**近**年、宣教師は世界中である問題にぶつかっている。心から関心を示していた求道者が1, 2回しか訪問しないうちに会ってくれなくなるのである。調査の結果、このような求道者には一つの共通点があることが分かった。教会について事実と異なる悪い情報をインターネットで見て興味を失ってしまうという点である。

6年前は、検索エンジンを使って「モルモン」を英語で検索すると、結果の80パーセントは否定的な情報か間違った情報だった。今日では状況が改善されており、国によっては、「モルモン」をインターネットで検索すると、80パーセントは肯定的な情報が出てくるようになった。

教会について  
ウェブサイトで  
調べる人が  
増えるに従い、  
会員の果たす役割も  
ますます重要に  
なってくる。

何がこの飛躍的な変化を引き起こしたのだろうか。教会の公式ウェブサイトに加えて、教会のプラス情報を伝える非公式なウェブサイトがウェブ中に広がっている。個人がブログを使って自分の価値観を伝えている。そして、福音のメッセージはソーシャルネットワーキングサイトにも登場しているのである。

端的に言えば、使いようによっては、インターネットは**会員が専任宣教師**に求道者を紹介する手段にもなるということである。

多くの教会員が、十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老の次の勧告に啓発されてきた。「福音を伝え、回復のメッセージを簡潔で分かりやすい言葉を使って説明できるよう、インターネット上の会話ややり取りに参加してもらえますか。」<sup>1</sup>

インターネットを使って教会員がどのように福音を伝えているか、幾つか見てみよう。どれも簡単ではあるが効果的な方法である。

### 新しいMormon.org

教会の公式ウェブサイトであり、しっかりした伝道ツールでもあるMormon.orgは、プロフィールを掲載できるようにして教会員と利用者をダイレクトにつながるように設計し直しているところである。

新しいMormon.orgは、2011年半ばには、スペイン語とポルトガル語を皮切りに、様々な言語での公開が始まる。このサイトでは、会員がプロフィールを作成して、自分の信仰やライフスタイルについての説明を載せることができる。サイトの訪問者は、このプロフィールページを見て、教会員から直接教会について知ることができるのである。

「サイトの訪問者が教会員と知り合って交流するようになってほしいと思っています」と、宣教師管理部でインターネットおよびマーケティングマネージャーを務めるロン・ウィルソンは言う。

(新しいMormon.orgにあるプロフィールその他の機能に関する詳しい情報は、以下の記事をお読みください。)

### モア・グッド財団

モア・グッド財団は、教会員が創設した非営利



団体であり、オンライン上での教会のイメージを良くする活動をしている。教会が指示を与えたり後援したりしているわけではないが、同団体はオンライン上での教会のイメージアップに重要な役割を果たしてきている。

モア・グッド財団の創設者たちは、まず、検索エンジンの研究を始め、検索結果がどのように選ばれていくかを調べた。その結果、一般的な検索エンジンである Google は、検索結果のページに同じサイトのページは 2 件までしか表示しないということが分かった。これは、LDS.org の関連ページがたとえ何百もあったとしても、検索結果として表示されるのはそのうちの二つだけだということの意味する。そのため、残りの多くのスペースにはマイナスの情報を持つサイトが入ることになり、人は組織としての教会とは何の関係もないサイトの情報の方を信用してしまうようである。

「彼らは組織を当てにするのではなく、自分と同じような人たちの意見を知りたいのです」と、モア・グッド財団会長のジョナサン・ジョンソンは語る。「この原則が理解できれば、なぜ教会の指導者たちが会員はもっと効果的な働きができると言っているのかが分かります。公的な立場にある人には敷居が高くて近づきにくいので、敷居を低くしてあげるのです。」

モア・グッド財団は、1,400 余りの URL に対して権限を取得しており、福音の原則について語るウェブサイトを作成するよう教会員に協力を求めた。すでに 12 もの言語によって 320 のサイトを立ち上げた。また、1,900 件余りのビデオを YouTube に投稿して、教会を探し求めている人に真理を見いだす機会をさらに多く提供している。

## ブログ

ウェブサイト全体を作成する時間も技術もない人にとって、ブログは便利である。ブログ（「ウェブ・ログ」の略）は簡易版のウェブサイトであり、維持しやすく、通常は無料である。

世界中で何百人もの教会員が、自分のブログを利用して家族や友達に福音を伝えている。ブログ作成者が自分にとって大切なことをブログで公開

するのは自然なことであるから、ブログは福音について自然に語ることでできる場なのである。

ある若い母親は、オンラインで福音を分かち合っ  
て忠実なファンを獲得している。ステファニー・ニールソンはブログ [nieniedialogues.blogspot.com](http://nieniedialogues.blogspot.com) を開設し、専業主婦の生活を時々刻々伝えた。2008 年に航空機事故に遭ったが、この事故から無事生還してからもブログを更新し続けた。事故で肉体的には傷を負ったが、霊的には、さらに献身的に奉仕できるようになったという。

ステファニーはブログに投稿記事を掲載して福音を分かち合うだけでなく、LDS.org へのリンクの付いた大きなボタンもブログに載せている。また、ブログ訪問者には、「愛読書」であるモルモン書を無料で提供している。彼女は「世界中どこにでも」送るつもりである。

## ソーシャル・メディア・ウェブサイト

何百万という人々が Facebook（フェイスブック）や Twitter（ツイッター）、YouTube（ユーチューブ）などで連絡を取り合っており、教会員もこれらを使って福音を分かち合っている。

ソーシャルネットワークは情報が簡単に素早く伝わる傾向があるため、福音を分かち合うのもってこいの方法である。LDS.org では、Gospel Library（福音ライブラリー）にあるすべてのアイテムに「分かち合い」の機能が付いており、利用者は教会機関誌の記事や総大会の説教、レッスンの手引きへのリンクを様々なソーシャルメディアサイトにはるることができるようになっている。

ソーシャルネットワークの利用者が教会の公式 Facebook のページのファンになる可能性もある。教会には 28 万人、モルモン書には 16 万 2,000 人のファンが付いている。そして、何千人もの人々がその他の教会関連のページに参加しているのである。Facebook の利用者があるグループに入ると、その友達にも通知が行く。そのため、Facebook の利用者の何十万人もの友人が、Facebook を通して教会を知ることになるのである。

また、教会員は福音を分かち合うために Twitter も使っている。これは、短いメッセージ（「つぶやき」）

をインターネット経由で送るために使うソーシャルネットワークングウェブサイトである。とりわけ2009年4月の総大会の週末の間、総大会はTwitterでは一番人気だった。<sup>2</sup> つまり、総大会が、ほかのどの話題よりも多く語られたのである。

教会は人気ビデオ投稿サイトYouTubeにも登場し、会員にもそうでない人にも好評を博している。Mormon Messages のすべてのビデオは、YouTubeに掲載されるその他もろもろのビデオと同じように、ブログにはりつけたり、電子メールやFacebook、Twitter で送ったりすることが簡単にできる。

インターネットは一世代前には想像もできなかったような方法で求道者を探す方法を教会員に提供している。そして、技術が進歩するとともに、教会員の福音を分かち合う能力も向上していくことだろう。■

#### 注

1. M・ラッセル・バラード、「インターネットを用いて福音を分かち合う」『リアホナ』、2008年6月号チャーチニュース、3
2. “Top Twitter trend: LDS General Conference,” メアリー・リチャーズ, ksl.com, 2009年4月6日。http://www.ksl.com/?nid=148&sid=6074101

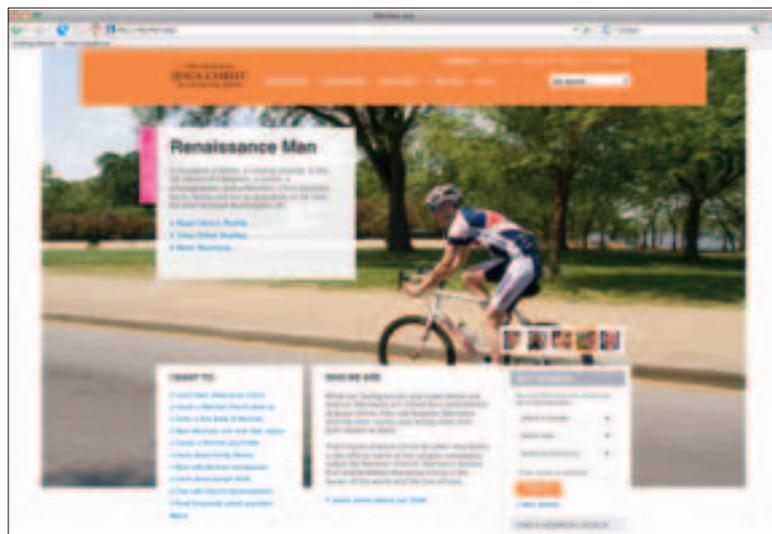
## Mormon.org を再設計 会員と求道者がつながる

**M**ormon.org は2001年の公開以来、教会に関する疑問に対して、人々が単刀直入なありのままの回答を得られるようにする機能を果たしてきている。そのような回答は、おもに教会本部から来ていた。

Mormon.org の最新版は、完全改訂版も含めて、今も多くの疑問に回答を与え、宣教師との出会いのチャンスを提供し続けている。しかし現在では、新しくできたオンラインで自分のプロフィールを紹介する機能のおかげで、多くの回答が世界中の教会員から直接受け取れるようになっている。

この新しいサイトを訪れる人は、何千人もの会員のプロフィールを性別や年齢、民族、宗教的背景その他の特徴で分類して、自分に似ている教会員を見つけることができる。この新しいサイトの英語以外の言語による公開は、2011年半ばから始まる。プロフィールのページを開けると、利用者は<sup>あかし</sup>証を読んだりさらに突っ込んだ質問をしたりすることができ、場合によってはソーシャルネットワークングのウェブサイトと交流できるようになるケースもある。このように友達感覚の交流を持つことによって、求道者は教会に対してくつろいだ見方ができるようになるのである。

「インターネットで情報を検索する場合、人はある組織について、組織自体が発信する情報よりも、



**改訂版  
Mormon.org の  
英語以外の  
言語による公開は、  
2011年半ばから  
始まる。**

自分と似た立場の人の意見の方を信用します。宗教団体については特にそうです」と、宣教師管理部の管理ディレクターであるリチャード・G・ヒンクレー長老は言う。「会員のプロフィールが新しいMormon.orgの中で非常に重大な意味を持つのはこのためです。」

新しいMormon.orgは「わたしたち教会員」、「わたしたちの価値観」、「わたしたちの信仰」、「よくある質問」の4つのエリアに大きく分かれており、それぞれのエリアでは、教会の特定の側面に絞って説明している。

## わたしたち教会員

このセクションには会員のプロフィールがあり、求道者は回復された福音の証を得た人と「出会う」ことによって、福音への理解を深めていくことができる。

「教会に対する誤解が解けるかどうかは、一つには、モルモンの教会員と知り合う機会があるかどうかにかかっています」と、宣教師管理部でインターネットおよびマーケティングマネージャーを務めるロン・ウィルソンは語る。「教会について悪い噂を耳にしても、モルモンである友人の生き方に照らし合わせて、それが間違いだということが分かるのです。」

## わたしたちの価値観

「わたしたちの価値観」のセクションでは、会員が信仰に基づいてどんなことを行っているかを説明している。人道支援や家族、教育、奉仕、家族歴史など、教会が重要視している事柄について説明しているのである。このセクションを見ると、求道者は、教会の教義を会員の生き方と結び付けて理解することができるようになる。

## わたしたちの信仰

「わたしたちの信仰」セクションでは、教会の基本的な教義を説明している。このサイトのこのセクションは、すべてが、「モルモン教徒はどんなことを信じているのか」という疑問への回答となっている。また、このセクションは、このサイトのほかのエリアに進む手がかりも提供している。このサイトを訪れる人は、イエス・キリストを救い主として信じる信仰や福音の回復、ジョセフ・スミス、救いの計画、モルモン書、その他のテーマについて学ぶことができる。

## よくある質問

教会員は自分のプロフィールに対する質問に回答することによって、このセクションのコンテンツを作成している。よくある質問に対して教会員が自分の言葉で答えるため、このサイトを訪れる人は、教会に関する知識を教会員から得ることができる。■

## オンラインで 入手できる 平易なオルガン用楽譜

**オ**ルガンを弾く機会があまりないピアノ演奏者も、「簡単準備キット」を活用すると、聖餐会の伴奏が少し楽になることをお約束しよう。ピアノ演奏者がオルガンの演奏もできるようにするため、*Manual-Only Hymns for Organ* と *Transformations* の2冊の楽譜が作成された。

*Manual-Only Hymns for Organ* は、ペダルなしで演奏できるように編曲された38曲の有名な賛美歌を収録している。*Transformations* は、同じ38曲の賛美歌の前後に付け足すフレーズを収録している。このフレーズを付けると、賛美歌を前奏曲や後奏曲に変えることができる。この2冊はインターネットでの入手が可能であり、ダウンロードも無料でできる。music.lds.org を開いて **Learning Materials** をクリックしてから **Accompanying Others** をクリックし、次に **Manual-Only Hymns for Organists** をクリックする。らせん綴りのテキストは、<http://creativeworks.byu.edu/catalog/ViewItem.aspx?item=SM021> で購入できる。

ピアノ用に平易に書かれた賛美歌と違い、この伴奏曲には左右の手が別々の鍵盤で演奏する箇所や、オルガンのペダルボタンを使う箇所が出てくる。弾き方の説明も出ているが、この曲集はオルガンが弾けるようになることを目的として作成された

テキストではない。ピアノを弾く伴奏者がオルガンを弾いたことがない場合や、経験はあっても十分な練習時間が取れない場合に、どこから練習をスタートすればよいか理解してもらうことを目的に書かれたものである。

このプロジェクトは2008年後半から始まり、タバナクル合唱団の前オルガニストであるロバート・カンディックが、同合唱団の現職オルガニストのリチャード・エリオットおよびブリガム・ヤング大学とブリガム・ヤング大学アイダホ校のオルガニストチームの協賛を受けて進めた。■

## オンラインで 見ることができる セブアノ語と タガログ語の聖典

**オ**ンラインでモルモン書と教義と聖約、高価な真珠の合本をセブアノ語とタガログ語で読むことができるようになった。それぞれ、[scriptures.lds.org/ceb](http://scriptures.lds.org/ceb)、[scriptures.lds.org/tgl](http://scriptures.lds.org/tgl) にアクセスする。

このサイトには脚注と地図、写真も掲載されており、聖文にしるしを付けたり、キーワードで聖文を検索したりすることができる。現在、聖文のサイトは17言語あり、近い将来日本語とインドネシア語、タイ語の聖文サイトも追加される予定である。■

## 神殿ニュース

### バンクーバー神殿の奉献

トーマス・S・モンソン大管長は2010年5月2日、ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバーの郊外にある教会の131番目の神殿を奉献した。2010年のオリンピック冬季競技大会がバンクーバーで開かれた後、2か月にわたって行われた一般公開の期間中には、4万人近くの人が神殿を見学した。ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバー神殿は、ブリティッシュ・コロンビア州および合衆国ワシントン州北部の会員が利用することになる。カナダには、建設計画が発表されている神殿および現在儀式を行っている神殿が8箇所ある。

### アリゾナ州ギラバレー神殿の奉献

トーマス・S・モンソン大管長は2010年5月23日、アリゾナ州ギラバレー神殿の奉献を3つのセッションにおいて行った。この神殿は、アリゾナ州南東部およびニューメキシコ州南西部の会員が利用する。この神殿は、スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985年）が育った地域からさほど遠くないアリゾナ州南東部に位置する。ギラバレー神殿は、アリゾナ州にオープンする3つ目の神殿であり、さらに2つの神殿（アリゾナ州ギルバート神殿とアリゾナ州フェニックス神殿）の建設計画が発表されている。

### セブシティー神殿の奉献

トーマス・S・モンソン大管長は2010年6月13日、フィリピン

で2番目の神殿の奉献を行った。フィリピン・セブシティー神殿は、フィリピン・マニラ神殿から563キロメートルのところに位置する。この神殿は、ビサヤ地域とミンダナオ地域に住む20万人以上の会員が利用することになる。2か月にわたって行われた一般公開には、4万5,000人以上の人が訪れた。奉献の前夜には、3,000人以上の青少年による文化行事が催された。

### ユタ州ブリガムシティー神殿の くち 鋤入れ式

ユタ州ブリガムシティー神殿の鋤入れ式が、2010年7月31日土曜日午前9時に行われた。十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長の管理の下で行われたこの鋤入れ式の様子は、同神殿地区のステーキセンターにて放映された。ユタ州ブリガムシティー神殿の建設は2009年10月3日、総大会にて発表されており、これは、儀式が行われている神殿としてはユタ州で14番目のものとなる。

### キエフ神殿の奉献

ウクライナ・キエフ神殿は、2010年8月29日に奉献された。3つのセッションにわたって行われた奉献の様子は、神殿地区の全域に放映された。8月7日から21日まで一般に公開され、8月28日には文化的祭典が行われた。この神殿の建設が発表されたのは1998年7月20日である。建設は2007年6月23日に始まった。これは東ヨーロッパでは初めての神殿であり、ヨー



写真：ウエストン・コルトン

ウクライナ・  
キエフ神殿は、  
2010年8月29日に  
奉献された。

ロッパ大陸では11番目の神殿である。キエフ神殿は、13か国の会員たちが利用する。

### ライエ神殿の再奉献

全面的な改装工事の後、ハワイ州ライエ神殿は、2010年11月21日に3つのセッションにおいて再奉献された。それに先立ち、10月22日から11月13日まで一般に公開され、文化的祭典は11月20日に開催された。再奉献の様子は、ライエ神殿地区とコナ神殿地区に放映された。この神殿は1919年に教会で5番目に奉献された神殿であり、1978年に再奉献されている。当時、奉献はヒーバー・J・グラント大管長によって、再奉献はスペンサー・W・キンボール大管長によって行われた。■

## 読者からの便り

### 物事を変えた『リアホナ』

わたしは毎月『リアホナ』に載るメッセージに感謝しています。とても役立つメッセージで、毎日をより良く生きる助けになっています。がっかりしたり、人生がつらく思えたりするときに、わたしは必ず『リアホナ』のメッセージを読みます。すると、すべてが違ってくるのです。すべての記事に感謝しています。わたしのために、また、ほかの多くの人のために役立っているのですから。

エドガー・セレスティノ（アメリカ合衆国テキサス州）

### インターネットで教会とつながる

わたしは1990年にバプテスマを受けて以来、教会の集会にはいつも出席してきました。しかし、最近、平和維持部隊の一員として別の国に派遣されたため、現在は集会に出ることができません。わたしにとって教会とつながりを持つ方法は、インターネットで教会機関誌を読むことです。これによって大きな靈感を受けてきました。教会の預言者やその他の教会指導者の言葉を読むと、御霊を強く感じます。聖餐が受けられないのは残念ですが、天の御父はわたしの状況を理解しておられます。教会機関誌をインターネットで読めることに感謝しています。

オルクンビ・オリモロイエ（ナイジェリア）

ご意見、ご感想を [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) にお送りください。掲載されるお手紙は、紙面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

### 記事の募集

クリスマスのお祝いが望んだようにはできなかったことや、計画どおりに進まなかったことはありませんか。病気だったり、喪中だったり、兵役に就いていたり、学業のため家を離れていたり、家族や友人とは別の所にいたりしたことがあるのではないのでしょうか。そんなとき、あなたは救い主とその降誕をどのような形で祝いましたか。そのような経験を英語で500語以内（日本語なら1500字以内）で書いて、「Christmas Celebrations」という件名で [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) までお送りください。■

## 家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に幾つか例を挙げます。

「大切にすべき価値ある贈り物」26ページ——聖霊がどのようにして人を導かれるか、幾つかの例を挙げてニール・L・アンダーセン長老が説明しています。この例を幾つか読んでから、聖霊の導きを感じた経験を家族に話してもらおうとよいでしょう。



幼い子供たち向けには、聖霊の祝福を表す物を見せます。例えば、聖霊は慰めてくださるので毛布のようなものであり（ヨハネ14:26参照）、導いてくださるのでコンパスのようなものであり（2ニーファイ32:5参照）、贖いを通して清められたことが分かるように助けてくださるので（2ニーファイ31:17; 3ニーファイ27:20参照）、石鹸のようなものでもあります。

「七十人が語るクリスマスの伝統」32ページ——この記事で採り上げられている伝統を幾つか読んで、どの伝統が好きか家族に尋ねます。新しい伝統として取り入れたいものはありますか。

「とくべつな おきやくさま」68ページ——この話に出てくる家族のように、最初の示現について学ぶことによって預言者ジョセフ・スミスを記念することができます。また、ジョセフ・スミスについて語っている総大会の話（例えば、タッド・R・カリスター、「ジョセフ・スミス——回復の預言者」『リアホナ』および *Ensign* [『エンサイン』] 2009年11月号、35-37を参照）を読んでもよいでしょう。

### 救い主の使命に感謝

大好きな家庭の夕べの一つを通して、わたしたちは救い主の生涯と使命によりいっそう深い感謝の念を覚えるようになりました。わたしたちは家族全員に、救い主の手や目、足、口に関する聖句を探してもらいました。そして、見つけた聖句を発表し合ったのです。例えば、救い主の手は、重い皮膚病にかかった者たちを癒し、その足は水の上を歩き、ラザロの墓の前では、その目から涙を流しました。わたしたちはまた、イエス様の体の傷について話し合い、イエス様が完全に犠牲を成し遂げられたことについても話し合いました。イエス・キリストの生涯と使命についての話し合いは御霊を招き、家族のだれもが、救い主について証を述べました。

デビッド・R・アンダーソン（アメリカ合衆国ユタ州）■

## ぶどう畑のクリスマス

教会機関誌  
ラリー・ヒラー

12月も終わりに近づき、裸になったぶどうの木々が夜明け前の薄暗がりの中で冷たい朝霧に覆われています。しかし、静寂に包まれたぶどう畑の一角だけは、人々の声が行き交い、パチパチと音を立てながらたき火の火が赤々と燃え盛っています。クリスマスの早朝、この谷に住む人々はまだ暖かいベッドの中にいるか、クリスマスツリーの下に集まってはしゃぎ回る子供たちに目を細めていることでしょう。しかしその人たちとは違うクリスマスを迎えている小さな集団がぶどう畑にいました。彼らはある贈り物をするために集まって来ていたのです。

その訳は、アメリカのカリフォルニア州マデラにあるこのぶどう畑が、教会の福祉生産機構の一事業であることにあります。毎年このぶどう畑からは約40万ポンド（18万キロ）の干しぶどうが生産されます。総生産量の半分は、ビショップの倉に送られますが、残りの半分は、世界中の人道支援のために使われています。ここでは、8つのステーキに属するワードと支部が割り当てを受けてそれぞれの務めを果たし、ぶどうの木々の世話をしています。

最も大変な仕事は、ぶどうのつるの刈り込みです。前の季節に生長して絡んだつるは切り落とさなければなりません、次の収穫に向けて実をつけるわずかな茎は残しておかなければなりません。休眠期間に行くこの刈り込みを怠ると、ぶどう畑はつるが伸び放題になってしまいます。つるがはびこりすぎると、根が木の本体を支え切れなくなり、実がつきにくくなって収穫が激減してしまうのです。

なぜクリスマスの日に通くのかといふかしく思う人もいるでしょう。実は、ワードの会員の多くはぶどう畑やそのほかの果樹園で刈り込みなどをして生計を立てる野外労働者なのです。この時期人々は集中的に働いているため、この数週間の中でクリスマス当日しか通常の仕事を休むことができません。



クリスマス当日というのに自宅を後にして重労働に励む末日聖徒の一団があります。

何が彼らをそうした行動に駆り立てるのでしょうか。

それは、ある御方にお仕えしたいという強い思いが、彼らをそうさせるのです。

その御方の降誕をわたしたちはこぞってお祝いします。

その大事なクリスマスの日を彼らは教会のぶどう畑で過ごします。実に彼らは、過去15回のクリスマスのうち8回をここで過ごしてきました。マデラ第3スペイン語ワードの会員たちにとって、それは「エル・ニーニョ」つまり幼子イエスへの贈り物なのです。

そのうちの一人のミゲル・チャベスは、「わたしたちは、困っている家族のために自分たちにできることをします。わたしたちの小さな行いがほかの人にとってはとても大きな祝福になるのです」と語り、それが、主から受けるすべての祝福に対してお返しをする一つの手段だと言っています。また別の教会員は、実に分かりやすく次のように言っています。「これは、わたしたちにできる最高の仕事です。ここは神様のぶどう園ですから。」

この特別なクリスマスの日、マデラ第3ワードの会員たちは、自分たちに任されたぶどう畑の木々の刈り込みをして不要になったつるを集めて束ね終わると、近隣の二つのワードが担当する列の木々の作業もします。それは、王にささげるにふさわしい贈り物であると彼らは考えているからです。■



### キリストの言葉

「ぶどう園で働く者たち」 J・カーク・リチャーズ

イエス・キリストはこう教えられました。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながらず、またわたしとその人とつ

ながっておれば、その人は実をゆたかに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできなからである。」(ヨハネ 15:5)



「昔

の羊飼いたちのように、  
わたしたちは心の中でこう言う必要があります。  
『その出来事を見ようではないか。』』

大管長会第二顧問の

ディーター・F・ウークトドルフ管長はそう書いています。

「それを見たいと、心の中で望む必要があるのです。

<sup>かいば</sup>飼業おけの中に、神殿に、山上に、そして十字架上におられる  
イスラエルの聖者を見ようではありませんか。

羊飼いたちのように、

これらの大いなる喜びのおとずれのゆえに  
神をあがめ、ほめたたえようではありませんか。」

「キリストが見えるでしょうか」

4 ページ参照

